

# 第2章 高齢者を取り巻く状況

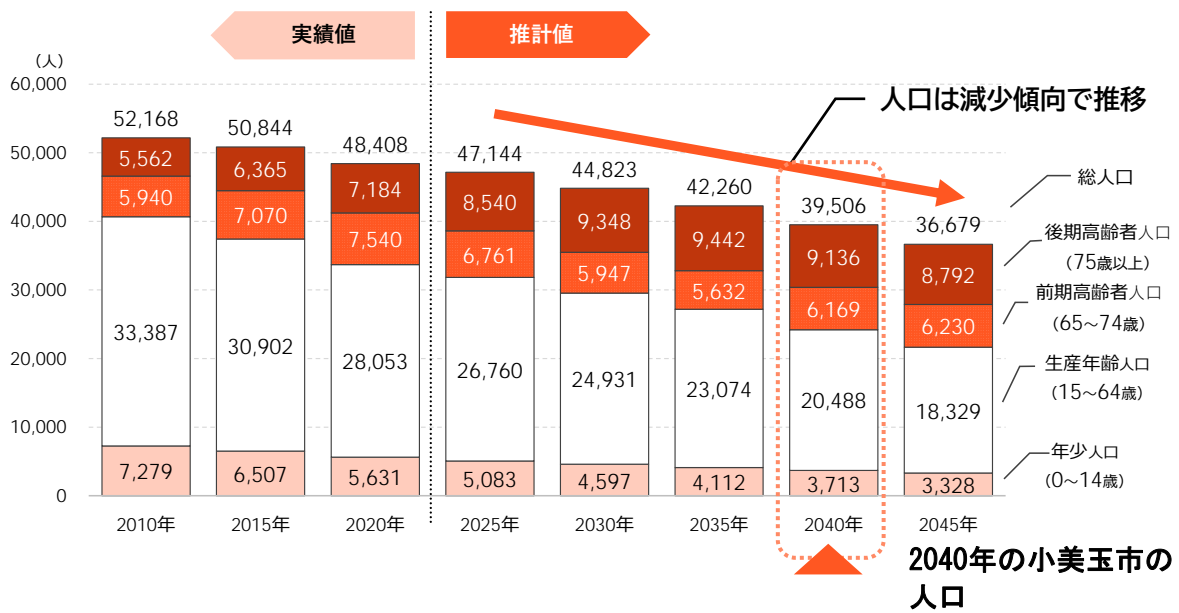
## 第1節 データからみる小美玉市の傾向

### 1. 人口推計の傾向

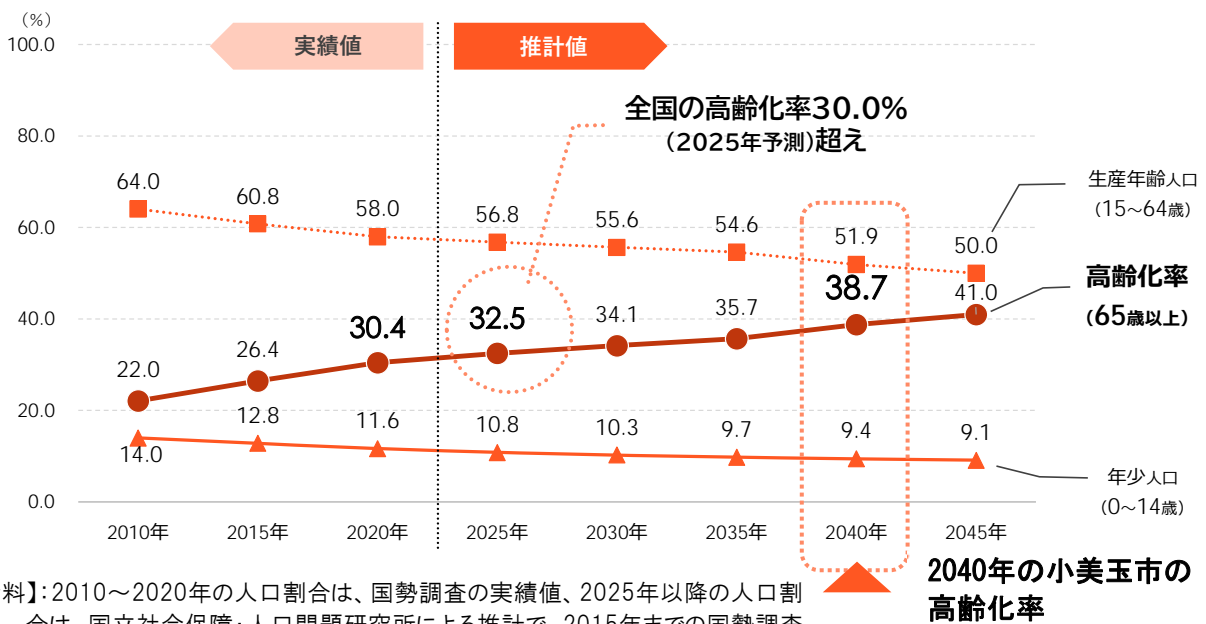
#### ①人口減少の進行、高齢化率の増加

本市の総人口は、平成22（2010）年以降減少傾向で推移しており、令和7（2025）年以降も減少し続ける予測となっています。また、高齢化率は、令和7（2025）年には全国の高齢化率30.0%（予測値）を超える32.5%となり、令和22（2040）年には38.7%となる予測です。

#### ■小美玉市の人口推移・推計（年齢4区分別）



#### ■小美玉市の高齢化率の推移・推計（年齢3区分別）



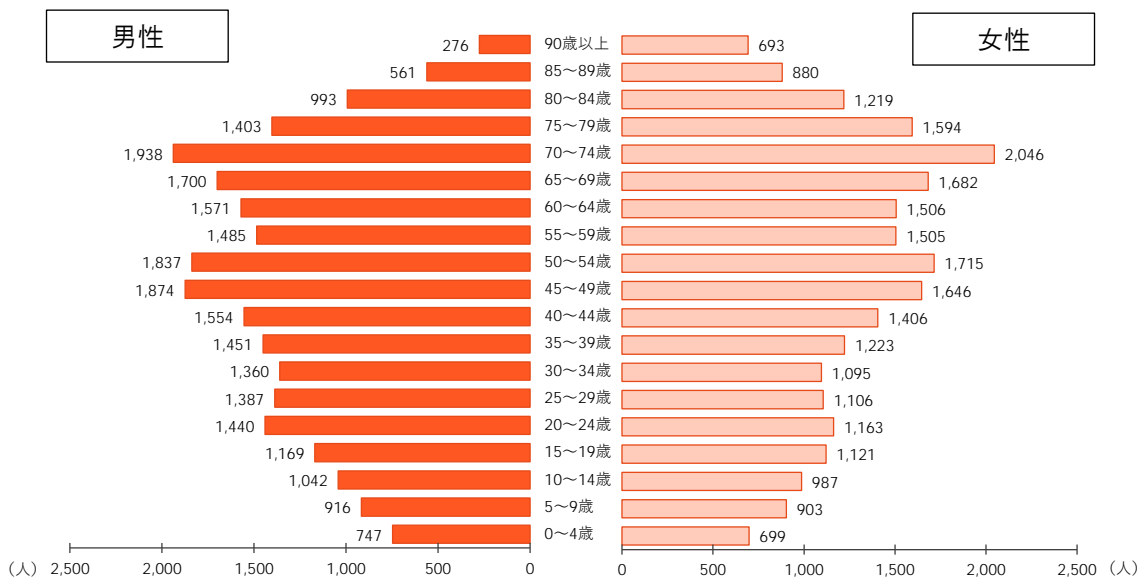
【資料】：2010～2020年の人口割合は、国勢調査の実績値、2025年以降の人口割合は、国立社会保障・人口問題研究所による推計で、2015年までの国勢調査の実績値を基にして算出された2018年時点の公表データ  
 (注)2020年の総人口は、年齢不詳も含めているため年齢別を足し上げても総数は一致しません。

## 2. 人口構成の傾向

### ①令和22（2040）年には60歳代より下の年齢層が減少傾向

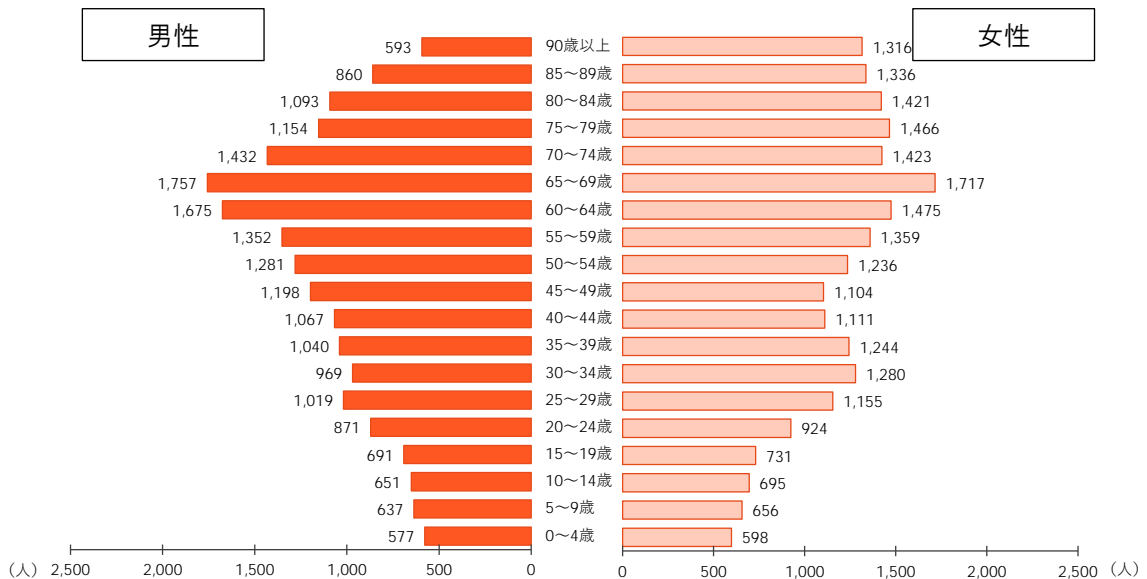
令和5（2023）年10月1日時点の男女別年齢階級別人口では、70～74歳が最も人口が多い年齢層で、次いで45～54歳の年齢層となっていますが、17年後の令和22（2040）年10月1日時点の男女別年齢階級別人口では、60歳代より下の年齢層は減少する予測で、少子高齢化の傾向が強まります。

■小美玉市の男女別年齢階級別人口（令和5年10月1日時点）※実績値



【資料】住民基本台帳（令和5年10月1日時点）

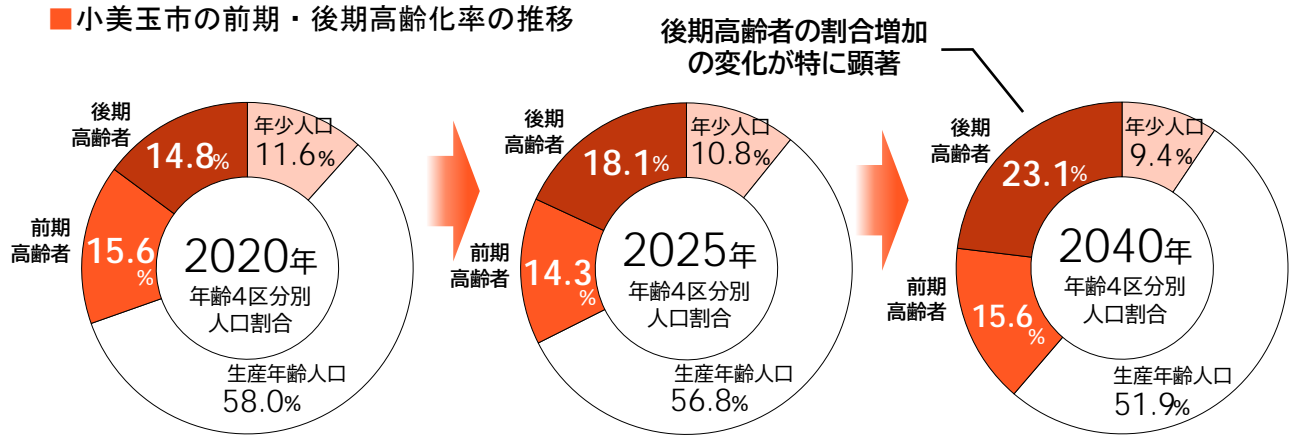
■小美玉市の男女別年齢階級別人口（令和22年10月1日時点）※推計値



【資料】令和22年10月1日時点は住民基本台帳を基にコーホート変化率法による市独自推計

②後期高齢者の割合増加

高齢者を前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）で見ると、その割合の変化は、特に後期高齢者の割合増加が顕著な傾向にあります。令和2（2020）年の後期高齢者の割合は14.7%ですが、20年後の令和22（2040）年には23.1%となる予測です。



【資料】：2020年の割合は国勢調査の実績値、2025年・2040年の割合は、国立社会保障・人口問題研究所が2015年までの国勢調査の実績値を基にして2018年に算出したデータ

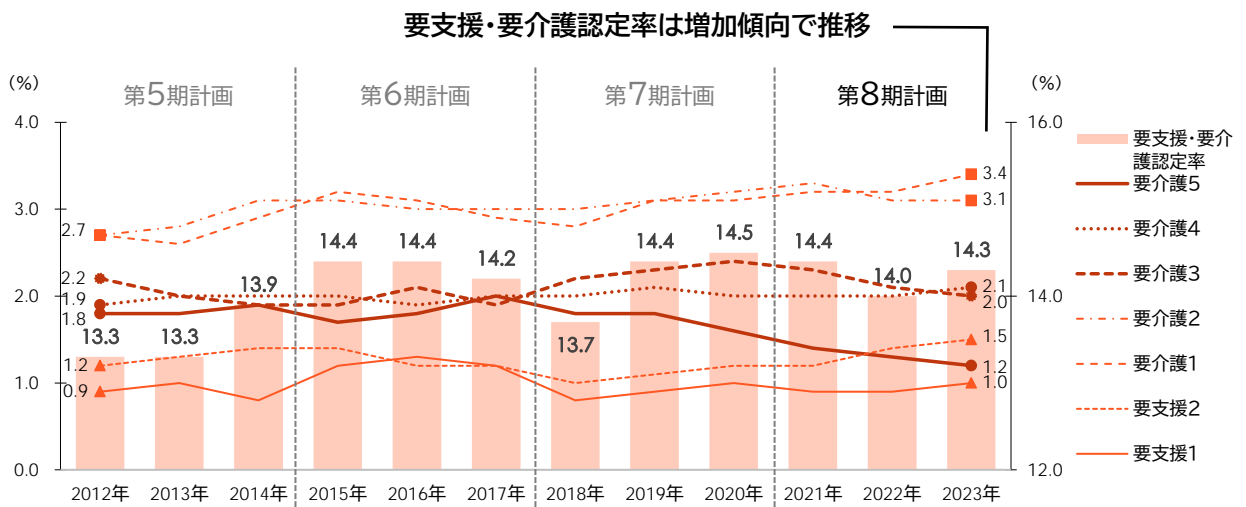
(注)2020年の総人口は、年齢不詳も含めているため、年齢構成比率を足し上げても100.0%になりません。

3. 要支援・要介護認定率の傾向

①要支援・要介護認定率は増加傾向で推移

本市の要支援・要介護認定率は第5期計画期間（平成24（2012）～平成26（2014）年度）以降、13～14%台で増減を繰り返しながら推移しており、第8期計画期間（令和3（2021）～令和5（2023）年度）では14%台となり、令和5（2023）年3月時点では14.1%となっています。要介護度別にみると、特に要介護1、2が高い割合で推移しています。

■小美玉市の要介護度別認定率の推移



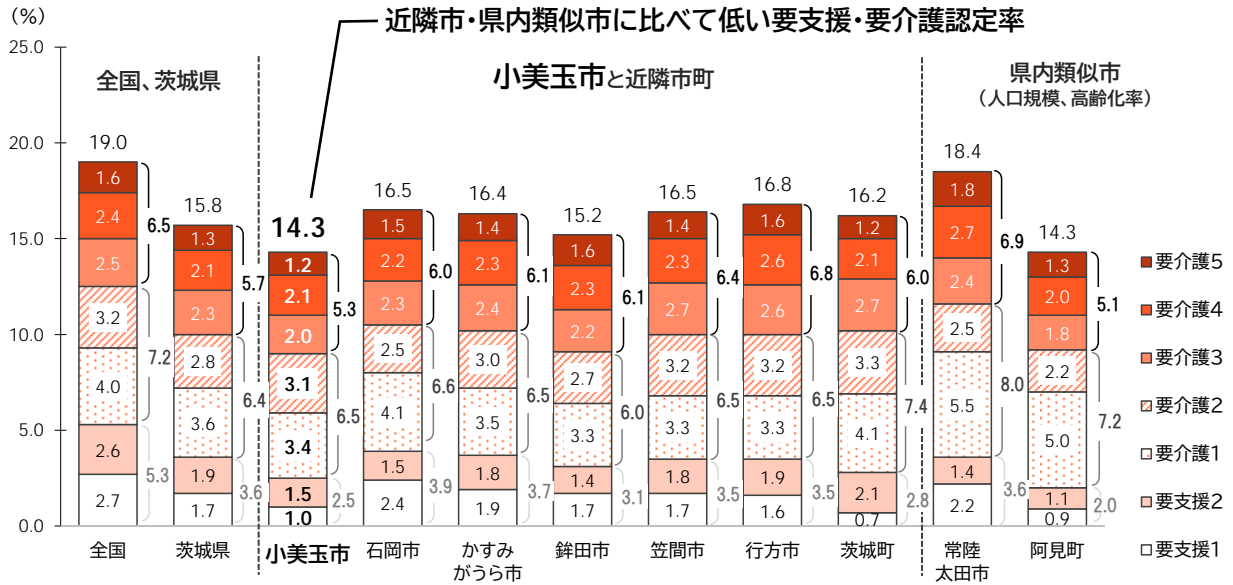
【資料】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（2022、2023年のみ「介護保険事業状況報告」月報）

②要支援・要介護認定率と重度認定率

本市の要支援・要介護認定率は14.3%（令和5（2023）年時点）で、全国や県、近隣市町、類似市町に比べて特に低い状況です。

一方、重度認定率と軽度認定率の構成を百分率で表すと、本市の重度認定率は37.1%、軽度認定率は62.9%となりますが、重度認定率は全国、県よりもやや高い傾向です。しかし、近隣市町、県内類似市町と比べると平均的な水準であることから、近隣地域全域で重度認定率が高まっていることがうかがえ、その中においては比較的低い割合といえます。

■小美玉市と全国、県、近隣市町、県内類似市町の介護度別認定率



▼【参考】重度認定率と軽度認定率の構成を百分率で表したデータ

	全国	茨城県	小美玉市	石岡市	かすみがうら市	鉾田市	笠間市	行方市	茨城町	常陸太田市	阿見町
重度認定率 (%) (要介護3～5)	34.2	36.1	<b>37.1</b>	36.4	37.2	40.1	38.8	40.5	37.0	37.5	35.7
軽度認定率 (%) (要支援1～要介護2)	65.8	63.3	<b>62.9</b>	63.6	62.2	59.9	60.6	59.5	63.0	63.0	64.3

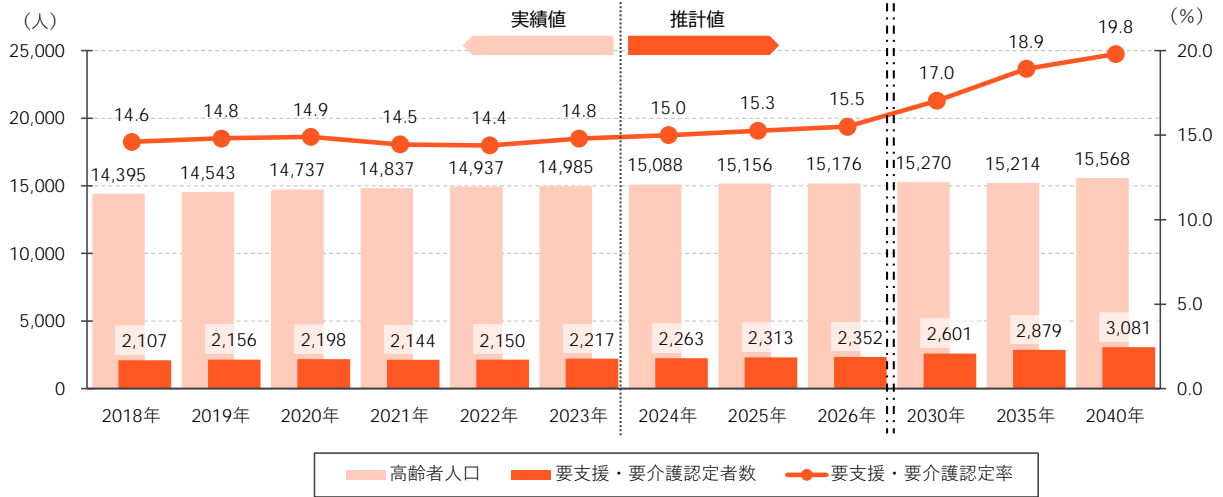
注) 算出過程での少数点以下第2位の切り捨てなどにより、合計が100%にならない場合があります。

【資料】厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（2023年時点）から作成

③要支援・要介護認定者数及び認定率の推移と推計

本市の要支援・要介護認定者数は、高齢者人口の増加に比例して増える予測です。また、要支援・要介護認定率は、令和6（2024）年以降増加傾向で、令和22（2040）年には19.8%となる予測です。

■小美玉市の要支援・要介護認定者数及び認定率の推移・推計



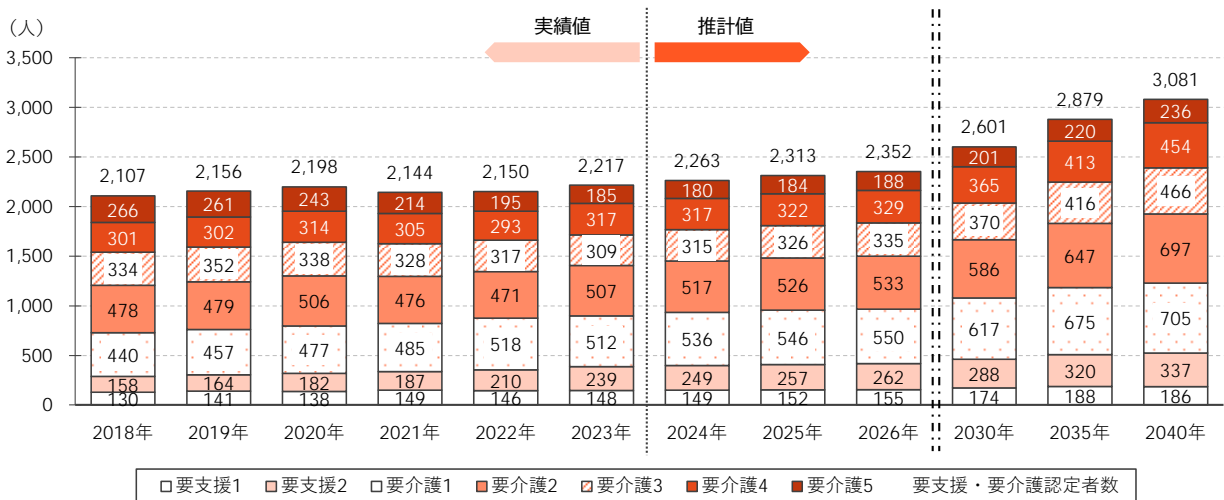
【資料】2018～2023年は介護保険事業状況報告（各年9月末時点）  
2024年以降は「見える化」システムによる推計

④要介護5が増加傾向に転じる予測

本市の要支援・要介護認定者数を要介護度別にみると、平成30（2018）年から令和5（2023）年にかけて要介護5が減少傾向にありますが、令和6（2024）年以降は増加傾向に転じる予測です。また、その他の要介護度についても、すべて増加傾向の予測です。

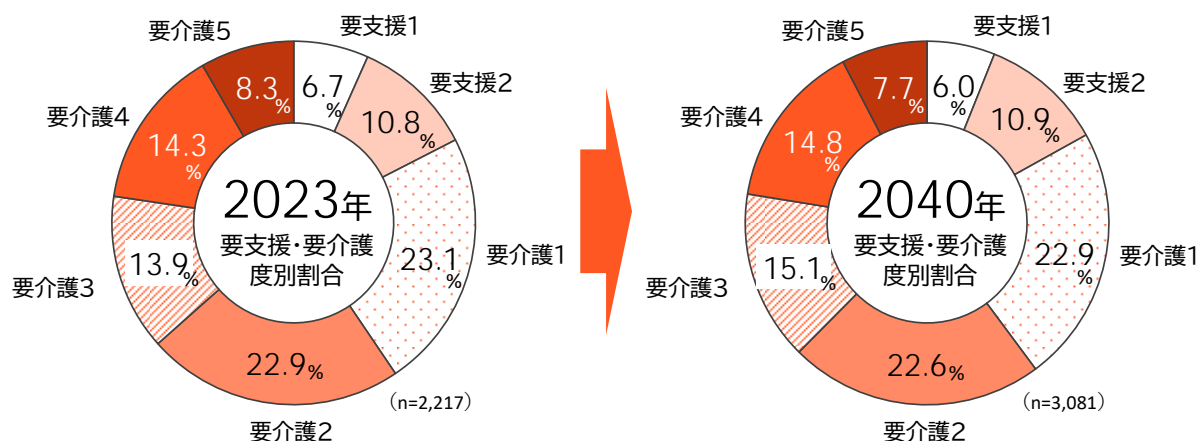
要支援・要介護度別認定者の構成比を令和5（2023）年と令和22（2040）年で比べると、「要介護3」と「要介護4」の割合がわずかに増加しています。

■小美玉市の要支援・要介護度別認定者数の推移・推計



【資料】2018～2023年は介護保険事業状況報告（各年9月末時点）  
2024年以降は「見える化」システムによる推計

■小美玉市の要支援・要介護度別認定者の構成比（2023年、2040年）



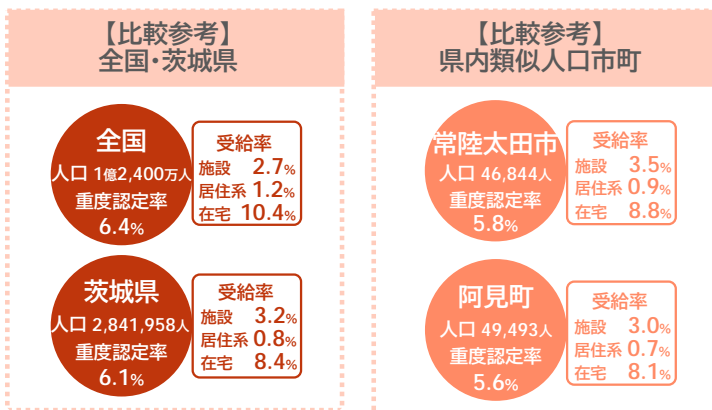
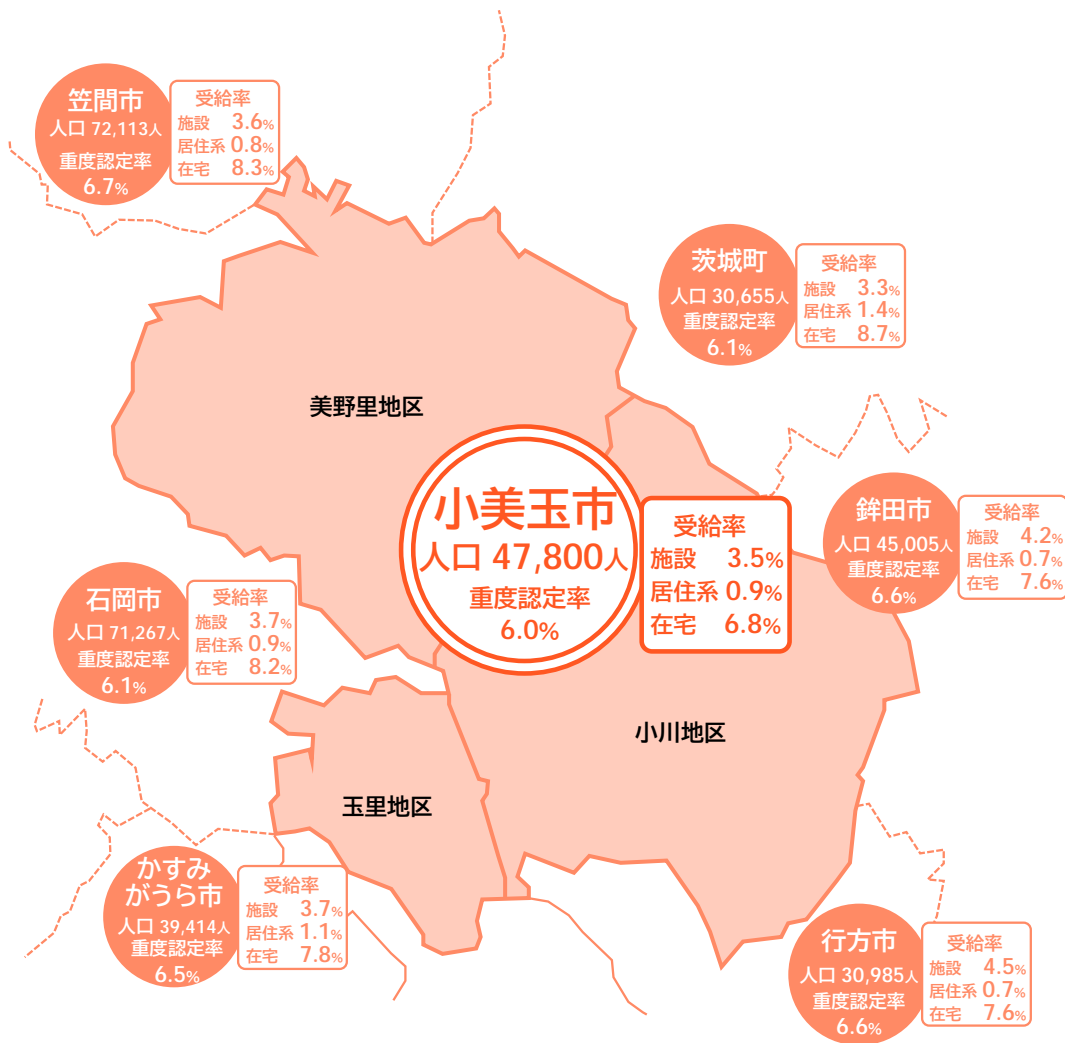
【資料】2023年は介護保険事業状況報告（各年9月末時点）、2040年は「見える化」システムによる推計

## 4. サービス別受給率の傾向

### ①在宅サービスの受給率が低い

本市のサービス別受給率（サービス別の受給者数を第1号被保険者数で除した割合）をみると、施設サービスは全国、県と比べて高いものの、近隣市町と比べると平均的であることから、一般的な傾向がうかがえます。一方、在宅サービスの受給率は全国、県に加えて近隣市町や類似市町と比べても低く、利用者が少ない傾向がうかがえます。

#### ■小美玉市と近隣市町、類似市町のサービス別受給率等の状況



（出典）総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2022年時点

【資料】厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（2023年時点）

※見える化システムによる推計値データにより作成したもの

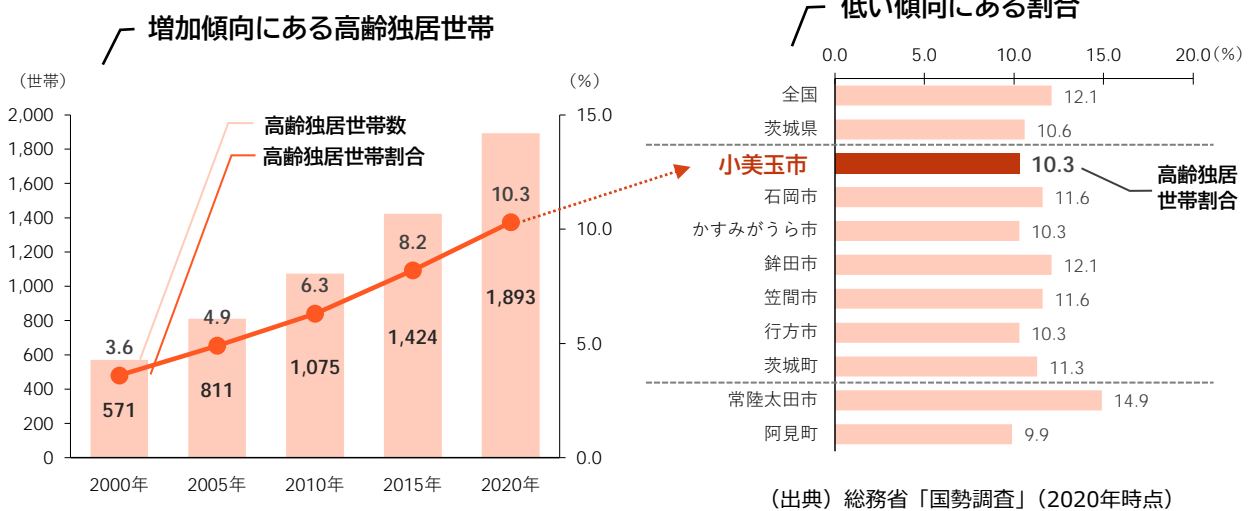
## 5. 高齢世帯の傾向

### ① 高齢独居世帯及び高齢夫婦世帯の増加

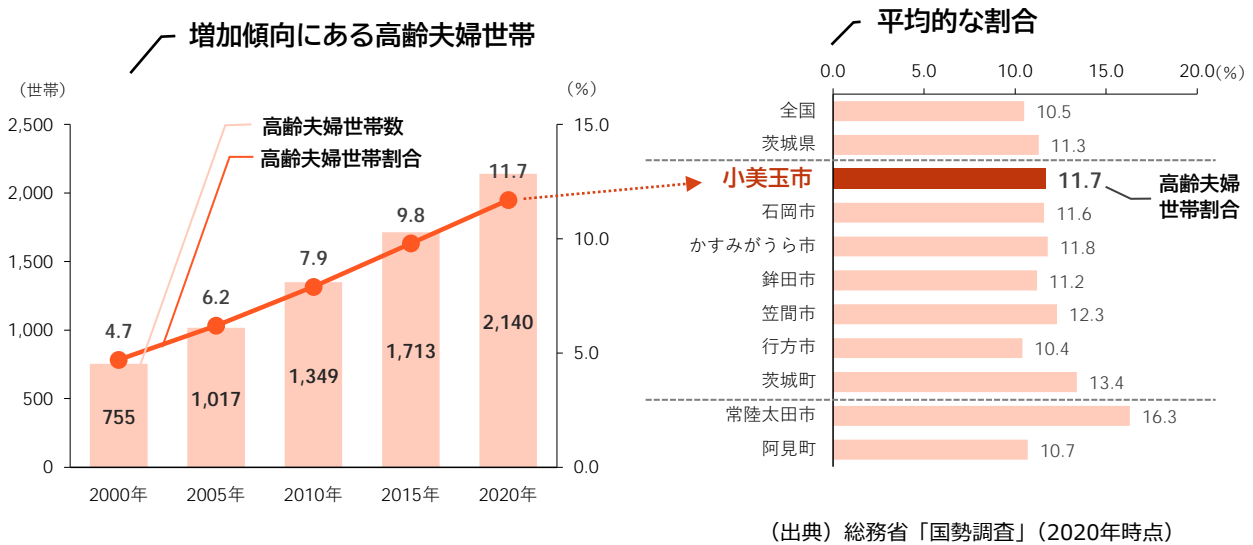
本市の高齢独居世帯数及び高齢夫婦世帯数は増加傾向にあり、令和2（2020）年時点の高齢独居世帯数（割合）は、1,893世帯（10.3%）、高齢夫婦世帯数（割合）は、2,140世帯（11.7%）となっています。

また、全国、県、近隣市町、県内類似市町と比べてみると、高齢独居世帯の割合は全国、県よりも低く、近隣市町や類似市町と比べると比較的低い傾向にあります。高齢夫婦世帯の割合は全国、県よりも高いですが、近隣市町、県内類似市町と比べると平均的な割合となっています。

#### ■ 小美玉市の高齢独居世帯数（割合）の推移と全国、県、近隣市町、県内類似市町との比較



#### ■ 小美玉市の高齢夫婦世帯数（割合）の推移と全国、県、近隣市町、県内類似市町との比較

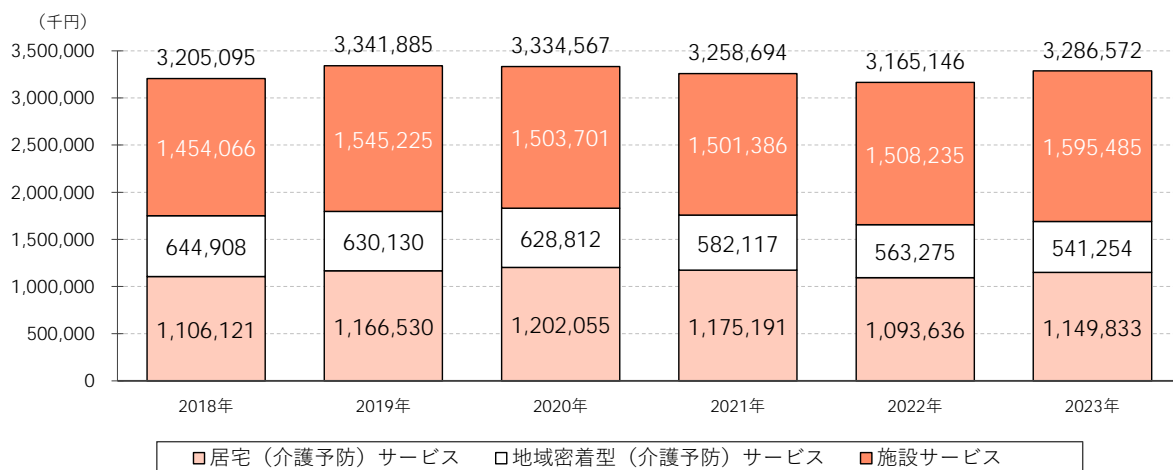




## 6. 給付費の傾向

### ① 居宅系サービスの増加と地域密着型サービスの減少

本市の居宅（介護予防）サービスと施設サービスは、増加傾向で推移しています。居宅（介護予防）サービスは、平成30（2018）年度の11億6千万円から、令和5（2023）年度（見込み）では11億4千万円となっています。施設サービスは、平成30年度（2018）の14億5千万円から、令和5（2023）年度（見込み）では15億9千万円となっています。一方、地域密着型（介護予防）サービスは、平成30（2018）年度の6億4千万円から減少傾向で推移し、令和5（2023）年度（見込み）では5億4千万円となっています。



(単位：千円)

	第7期			第8期		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (見込み)
給付費合計	3,205,095	3,341,885	3,277,569	3,258,694	3,165,146	3,286,572
居宅(介護予防)サービス	1,106,121 34.5%	1,166,530 34.9%	1,185,027 36.2%	1,175,191 36.1%	1,093,636 34.6%	1,149,833 35.0%
地域密着型(介護予防)サービス	644,908 20.1%	630,130 18.9%	603,961 18.4%	582,117 17.9%	563,275 17.8%	541,254 16.5%
施設サービス	1,454,066 45.4%	1,545,225 46.2%	1,488,581 45.4%	1,501,386 46.1%	1,508,235 47.7%	1,595,485 48.5%

(資料)「見える化」システム

※端数処理の関係で、計算が一致しないことがあります

## 第2章 高齢者を取り巻く状況

(単位：千円)

	第7期			第8期		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (見込み)
居宅(介護予防)サービス	1,106,121	1,166,530	1,185,027	1,175,191	1,093,636	1,149,833
訪問介護	73,001	79,410	78,872	81,130	86,482	87,840
訪問入浴介護	12,174	12,031	12,002	14,018	13,330	16,096
訪問看護	23,525	26,576	28,658	30,723	30,966	30,622
訪問リハビリテーション	6,511	8,177	11,220	14,635	11,430	9,306
居宅療養管理指導	7,611	7,682	7,667	7,990	9,253	8,419
通所介護	250,752	270,927	260,113	256,140	232,053	230,146
通所リハビリテーション	264,093	272,746	268,088	264,796	239,992	256,436
短期入所生活介護	153,827	162,321	171,413	168,275	149,452	174,802
短期入所療養介護(老健)	38,100	41,973	45,522	35,504	29,774	33,910
短期入所療養介護(病院等)	0	0	0	0	0	0
短期入所療養介護(介護医療院)	0	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	85,012	93,960	103,545	104,447	104,449	103,885
特定福祉用具購入費	2,751	3,453	3,823	3,387	3,948	4,716
住宅改修費	4,638	7,115	7,073	8,809	9,751	11,349
特定施設入居者生活介護	44,721	38,425	47,676	44,238	33,586	37,419
介護予防支援・居宅介護支援	139,403	141,732	139,355	141,099	139,170	144,888
地域密着型(介護予防)サービス	644,908	630,130	603,961	582,117	563,275	541,254
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	74,190	64,737	56,430	44,032	45,377	39,205
認知症対応型通所介護	16,796	14,900	12,735	16,137	14,898	15,066
小規模多機能型居宅介護	103,529	101,584	95,955	84,300	83,506	91,681
認知症対応型共同生活介護	361,922	361,058	352,312	353,313	344,809	317,677
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	88,472	87,852	86,530	84,334	74,230	77,625
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	455	0
施設サービス	1,454,066	1,545,225	1,488,581	1,501,386	1,508,235	1,595,485
介護老人福祉施設	818,422	881,566	870,369	873,408	888,793	939,317
介護老人保健施設	607,511	634,444	617,823	627,979	618,407	656,168
介護医療院	0	0	0	0	1,035	0
介護療養型医療施設	28,133	29,215	389	0	0	0
給付費合計	3,205,095	3,341,885	3,277,569	3,258,694	3,165,146	3,286,572

(資料)「見える化」システム

※端数処理の関係で、計算が一致しないことがあります

## 第2節 日常生活圏域

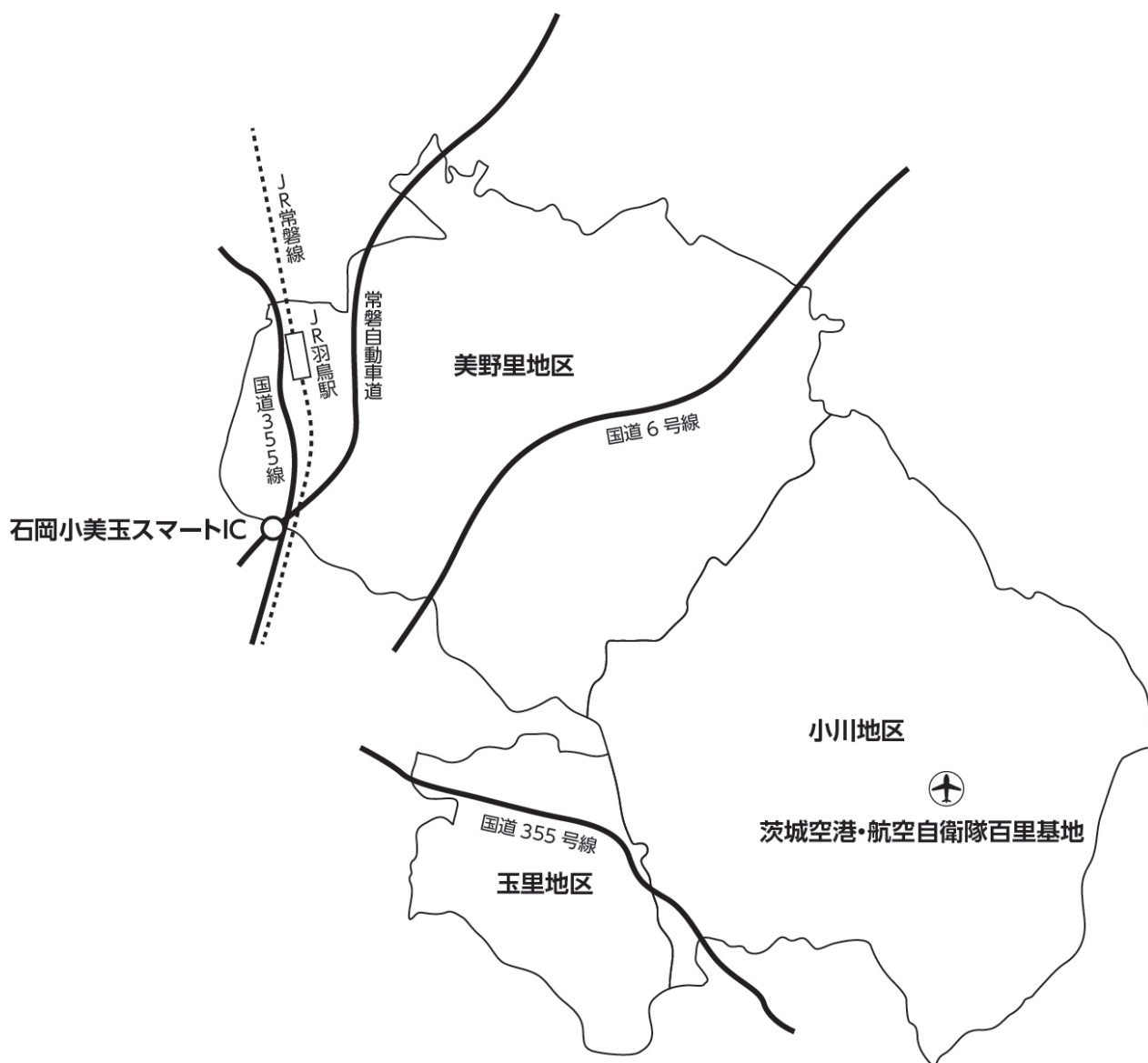
### 1. 日常生活圏域の概要

日常生活圏域は、地理的条件や交通事情、これまでの地域の成り立ちなどの社会的条件を勘案して、おおむね中学校区を単位として設定することとなっています。また、身近な地域においてきめ細かな介護サービスが受けられるよう、圏域ごとにサービスの配置を図ります。

### 2. 日常生活圏域の設定

本市の日常生活圏域の設定は、高齢者が住み慣れた身近な地域で自立した生活を送ることができるよう、小川地区、美野里地区、玉里地区の3つの日常生活圏域としています。

#### ■小美玉市の日常生活圏域



## 3. 地区ごとの概況

## ■人口、世帯等

項目	小川地区	美野里地区	玉里地区
総人口	16,046人	25,155人	7,676人
高齢者人口	4,921人	7,568人	3,168人
うち75歳以上	2,412人	3,970人	1,252人
高齢化率	30.7%	30.0%	41.3%
高齢者人口のうち75歳以上の割合	49.0%	48.8%	39.5%
要支援・要介護認定者数	703人	1,133人	377人
うち65歳以上	697人	1,124人	374人
要支援・要介護認定率	14.2%	14.9%	11.8%
高齢者独居世帯数	1,171世帯	1,733世帯	590世帯
高齢者世帯数	2,193世帯	3,375世帯	1,105世帯

## ■介護サービスの基盤整備状況

項目	小川地区	美野里地区	玉里地区
保健センター	小川保健相談センター	四季健康館	玉里保健福祉センター
地域包括支援センター	0か所	0か所	直営1か所
社会福祉協議会※	支所	支所	本所
介護予防拠点(集会所・公民館等)	16か所	20か所	18か所
認知症対応型共同生活介護	3か所	3か所	2か所
認知症対応型通所介護	0か所	0か所	1か所
小規模多機能型居宅介護施設	2か所	0か所	1か所
小規模特別養護老人ホーム	0か所	0か所	1か所
居宅介護支援事業所	5か所	4か所	3か所
介護(予防)訪問介護事業所	2か所	4か所	0か所
訪問看護事業所	0か所	1か所	0か所
介護(予防)通所介護事業所	5か所	6か所	2か所
介護(予防)通所リハビリ事業所	1か所	1か所	1か所
介護(予防)短期入所事業所	3か所	5か所	1か所
特別養護老人ホーム	2か所	5か所	1か所
介護老人保健施設	1か所	1か所	1か所
介護療養型医療施設	0か所	0か所	0か所

※令和5年10月1日時点

## 第3節 市民アンケート調査からみる傾向

### 1. 調査の概要

#### ①調査の目的

本調査は、令和6（2024）年度からの3年間を計画期間とする「小美玉市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定にあたり、今後の高齢者福祉施策を推進していくための基礎資料作成を目的に実施したものです。

#### ②調査の対象

調査名	調査対象の概要
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	市内にお住まいの令和4（2022）年12月1日時点で65歳以上の方
在宅介護実態調査	市内にお住まいの令和4（2022）年12月1日時点で65歳以上で、「要介護」・「要支援」認定を受け、在宅で生活をしている方及びその家族等

#### ③調査の期間及び方法

調査期間：令和4（2022）年12月23日（金）～令和5（2023）年1月12日（木）

調査方法：郵送配付・郵送回収

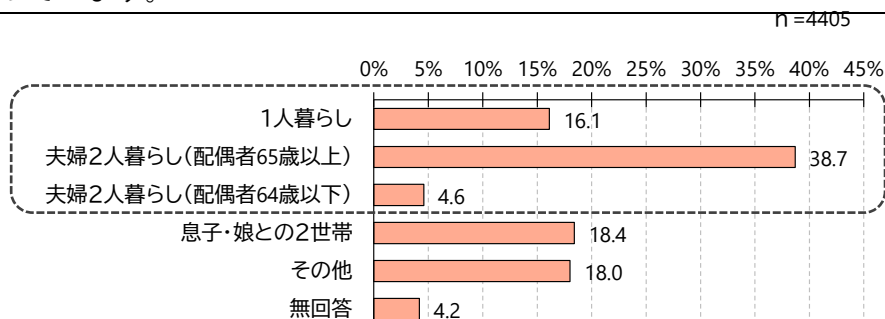
#### ④配付・回収状況

調査名	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	8,000票	4,405票	4,405票	55.1%
在宅介護実態調査	500票	227票	226票	45.2%

## 2. 主な調査結果及び傾向と課題(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

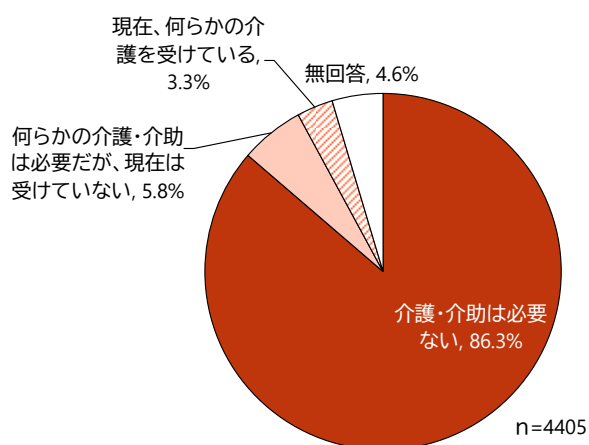
## ① 家族構成を教えてください。

「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が38.7%と最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が18.4%、「その他」が18.0%、「1人暮らし」が16.1%、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が4.6%となっています。



## ② あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

「介護・介助は必要ない」が86.3%と最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.8%、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が3.3%となっています。



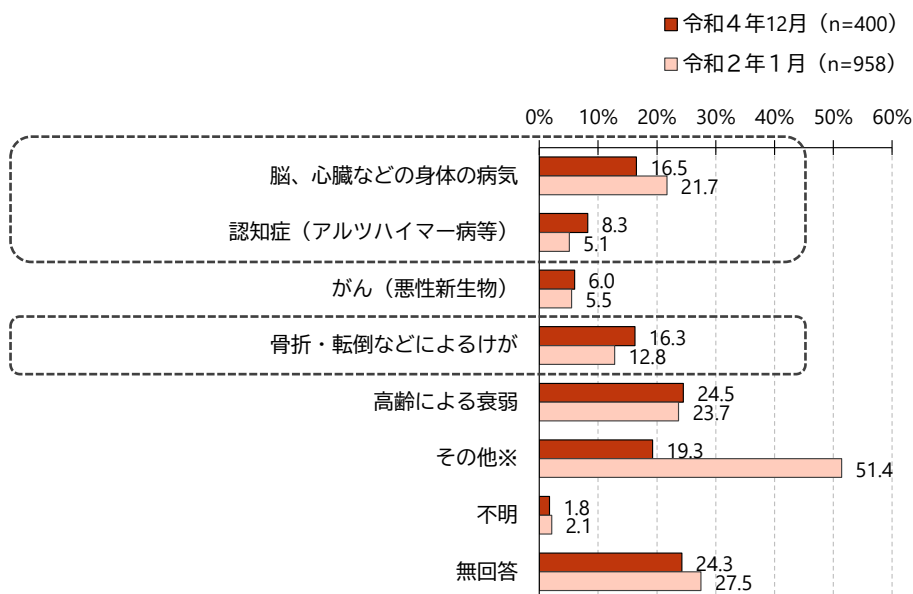
②で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方

②-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(複数回答)

「高齢による衰弱」が24.5%と最も多く、次いで「その他」が19.3%、「脳、心臓などの身体の病気」が16.5%、「骨折・転倒などによるけが」が16.3%、「認知症（アルツハイマー病等）」が8.3%となっています。

今回調査と前回調査を比較して、「脳、心臓などの身体の病気」が5ポイント以上減少し、「認知症（アルツハイマー病）」、「骨折・転倒などによるけが」が3ポイント以上増加しています。

前回調査(令和2年1月)結果と今回調査(令和4年12月)結果の比較



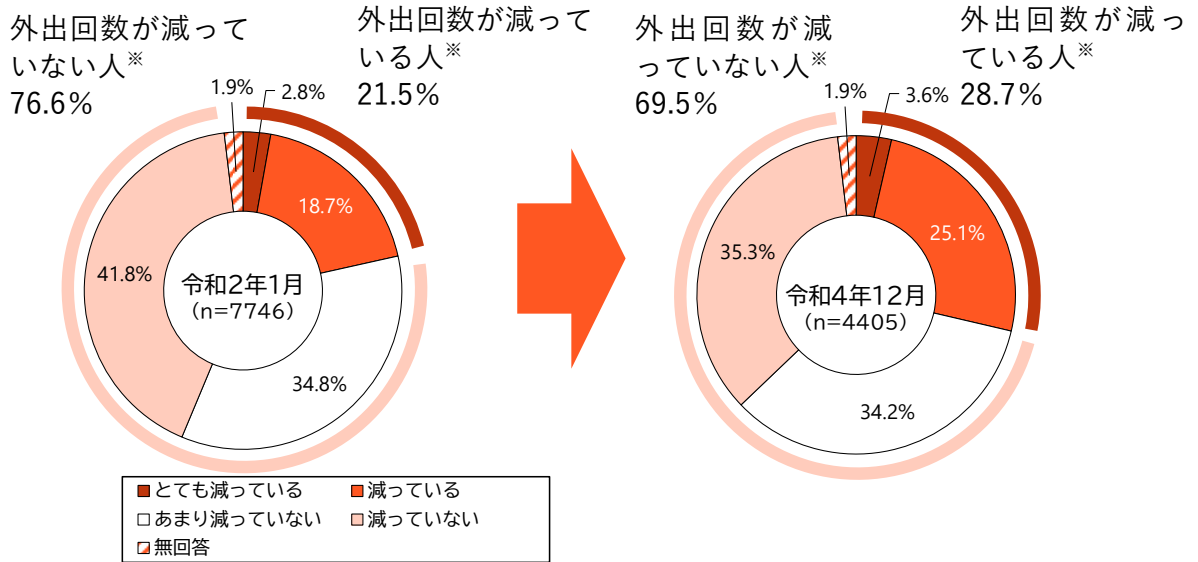
※前回調査（令和2年1月）であった項目「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」、「関節の病気（リウマチ等）」、「パーキンソン病」、「糖尿病」、「腎疾患（透析）」、「視覚・聴覚障害」、「脊椎損傷」は「その他」に含めて足し上げています。

③ 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

「減っていない」が35.3%と最も多く、次いで「あまり減っていない」が34.2%、「減っている」が25.1%、「とても減っている」が3.6%となっています。

今回調査と前回調査を比較して、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『外出回数が減っている』人の割合は、7.2ポイント増加しています。

前回調査(令和2年1月)結果と今回調査(令和4年12月)結果の比較

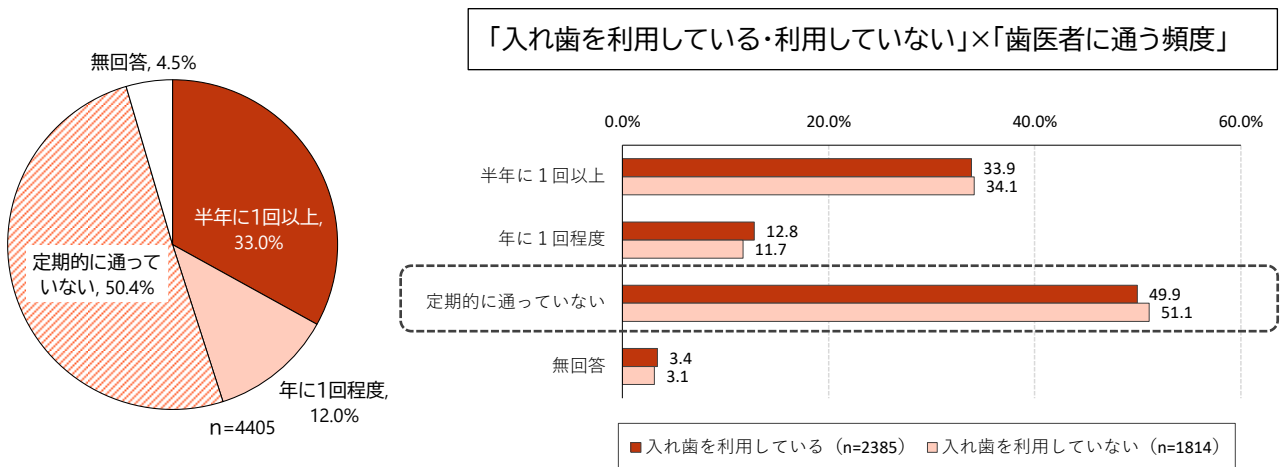


※外出回数が減っている人 = 「とても減っている」または「減っている」と回答した人の合計  
 ※外出回数が減っていない人 = 「あまり減っていない」または「減っていない」と回答した人の合計

④ 歯医者に定期的に通っていますか。

「定期的に通っていない」が50.4%と最も多く、次いで「半年に1回以上」が33.0%、「年に1回程度」が12.0%となっています。

入れ歯の利用の有無別にみると、入れ歯を利用している、利用していないにかかわらず、「定期的に通っていない」がそれぞれ49.9%、51.1%と最も多くなっています。

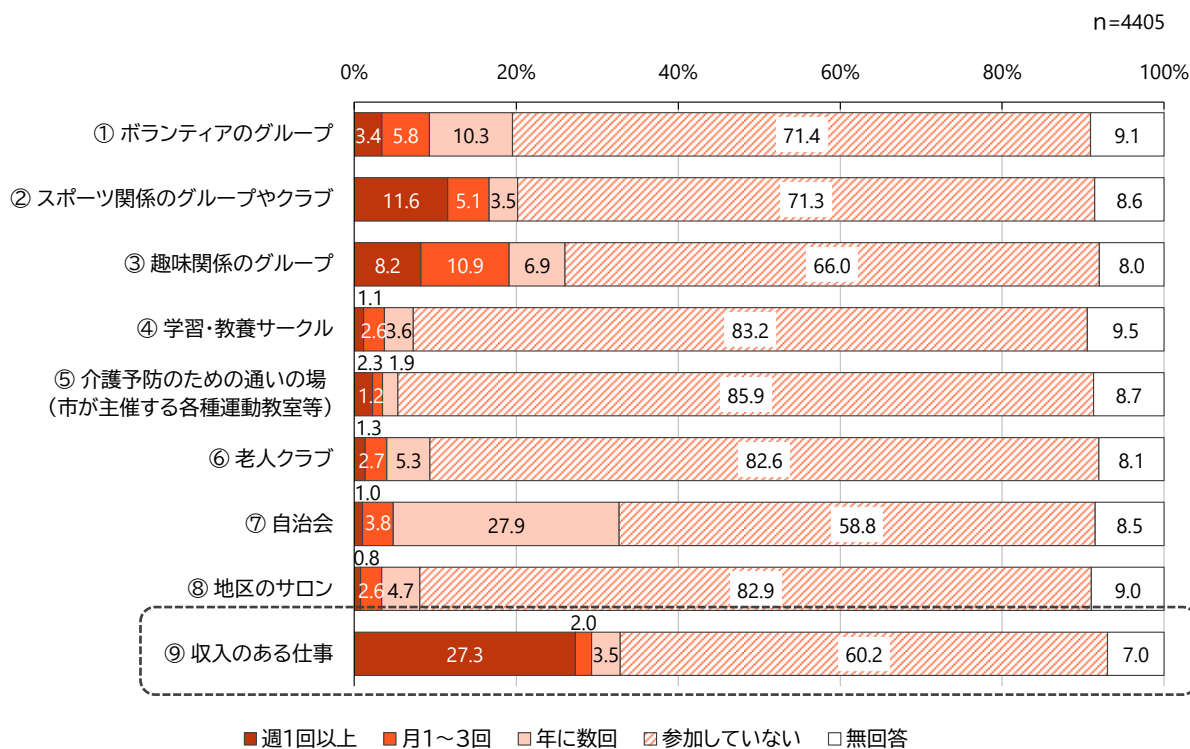




⑤ 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

「参加している（「参加していない」以外）」との回答は「⑨ 収入のある仕事」が32.8%と最も多くなっています。

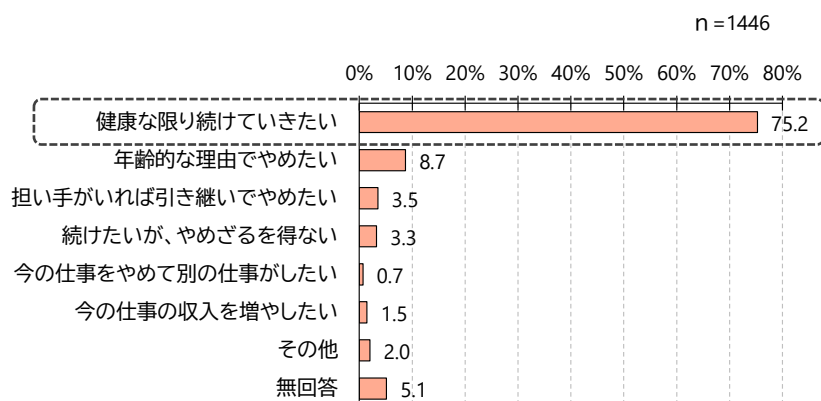
また、「参加していない」との回答が多いものは順に「⑤ 介護予防のための通いの場（市が主催する各種運動教室等）」が85.9%、次いで「④ 学習・教養サークル」が83.2%、「⑧ 地区のサロン」が82.9%となっています。



会・グループ等の⑨ 収入のある仕事で「参加している（「参加していない」以外）」と回答した方

⑤-1 これから、収入のある仕事をどのようにしていくか、あなたのお考えを教えてください。

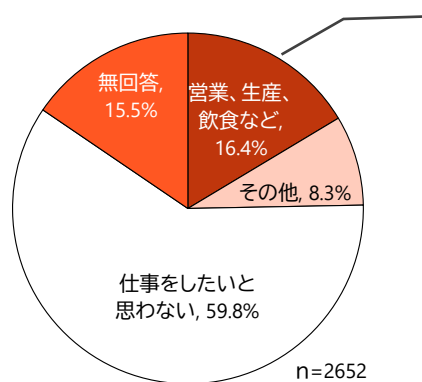
「健康な限り続けていきたい」が75.2%と最も多くなっています。



会・グループ等の⑨ 収入のある仕事で「参加していない」と回答した方

⑤-2 今後、収入のある仕事をする機会があったら、どのような仕事をしたいですか。

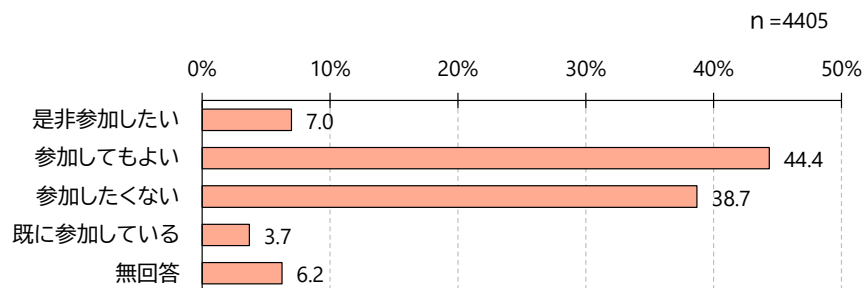
「営業、産業、飲食など」が16.4%となっています。ただし、「仕事をしたいと思わない」が59.8%となっています。



【内訳】  
 営業関係 (0.5%)、企画・マーケティング関係 (0.3%)、事務・スタッフ関係 (2.4%)、IT・ソフトウェア関係 (0.2%)、生産・製造・品質管理関係 (3.6%)、研究・開発・設計関係 (0.4%)、建築・土木設計関係 (0.8%)、金融関係 (0.0%)、流通・サービス関係 (1.3%)、医療関係 (0.6%)、美容・ファッション関係 (0.5%)、飲食・食品関係 (2.6%)、教育関係 (1.1%)、公務員・法律関係 (0.2%)、広報・報道関係 (0.2%)、旅行・観光関係 (0.6%)、スポーツ関係 (1.1%)

⑥ 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

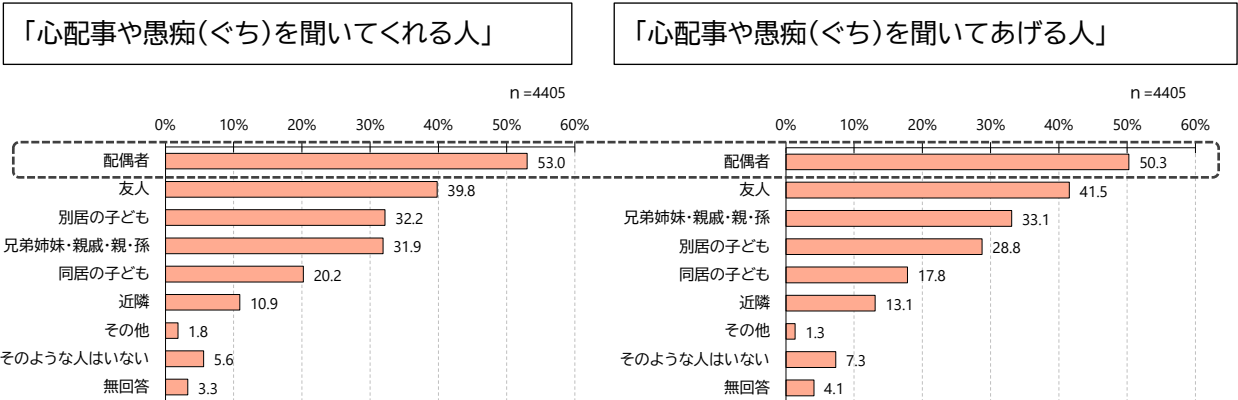
「参加してもよい」が44.4%と最も多く、次いで「参加したくない」が38.7%、「是非参加したい」が7.0%、「既に参加している」が3.7%となっています。



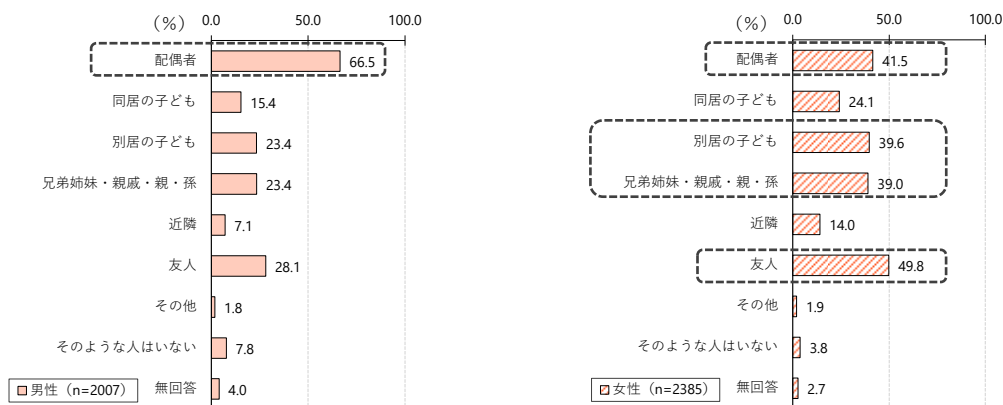
⑦ あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人・聞いてあげる人。(複数回答)

あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人では、「配偶者」が53.0%と最も多く、次いで「友人」が39.8%、「別居の子ども」が32.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が31.9%、「同居の子ども」が20.2%となっています。

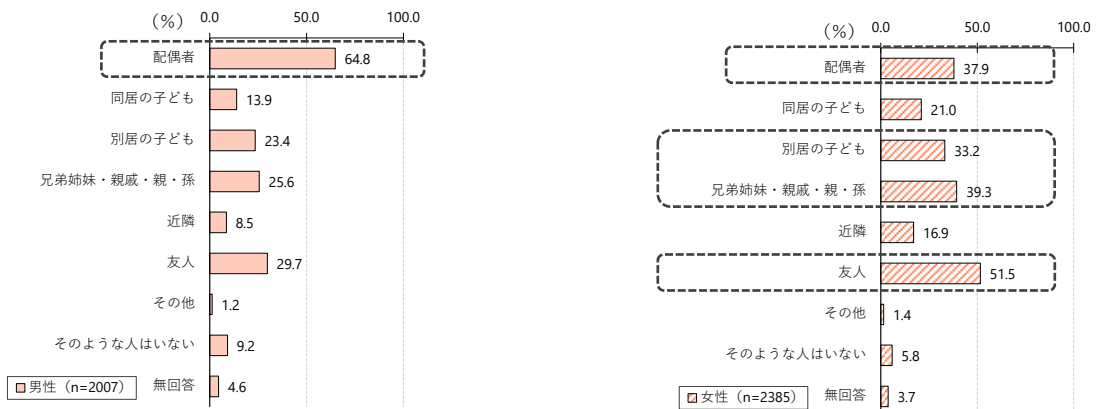
あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人では、「配偶者」が50.3%と最も多く、次いで「友人」が41.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.1%、「別居の子ども」が28.8%、「同居の子ども」が17.8%となっています。



「心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人」×属性(男女別)

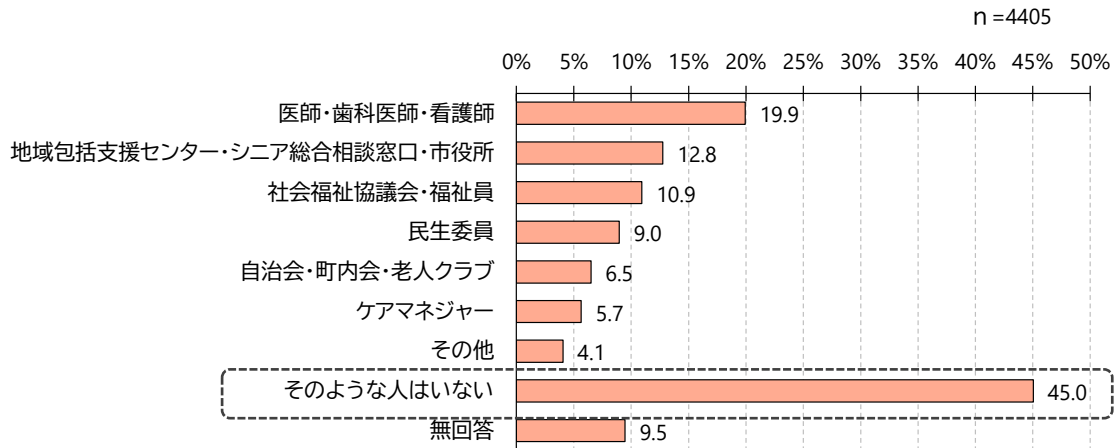


「心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人」×属性(男女別)



⑧ 家族や親戚・友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(複数回答)

「医師・歯科医師・看護師」が19.9%、「地域包括支援センター・シニア総合相談窓口・市役所」が12.8%、「社会福祉協議会・福祉員」が10.9%、「民生委員」が9.0%となっています。また、「そのような人はいない」が45.0%と最も多くなっています。

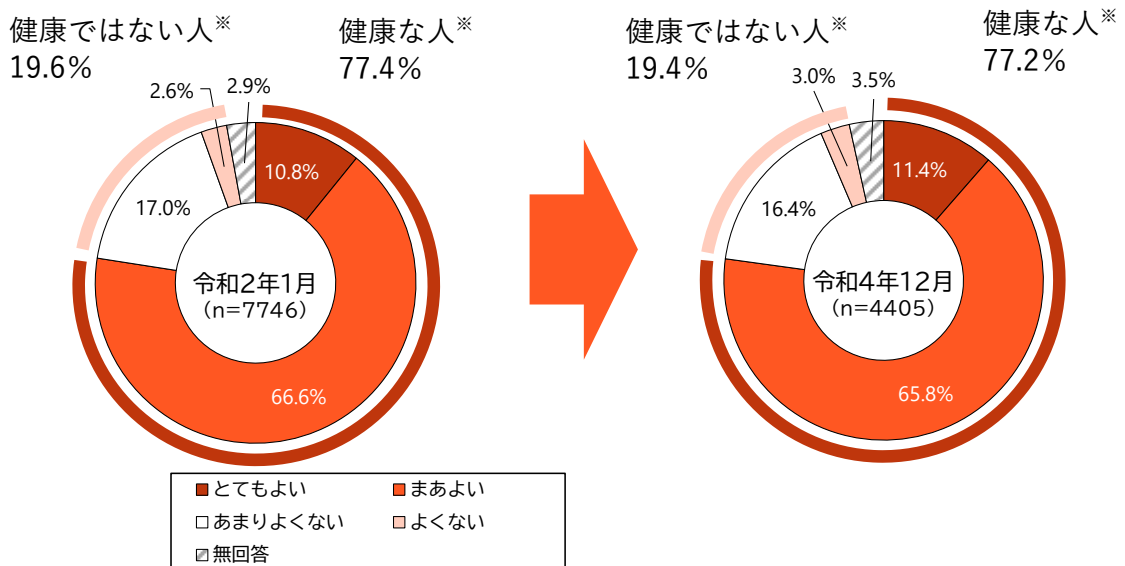


⑨ 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

「まあよい」が65.8%と最も多く、次いで「あまりよくない」が16.4%、「とてもよい」が11.4%、「よくない」が3.0%となっています。

今回調査と前回調査を比較して、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『健康な人』と「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『健康ではない人』の割合についてみても、大きな差はありません。

前回調査(令和2年1月)結果の比較と今回調査(令和4年12月)結果



※健康な人 = 「とてもよい」または「まあよい」と回答した人の合計

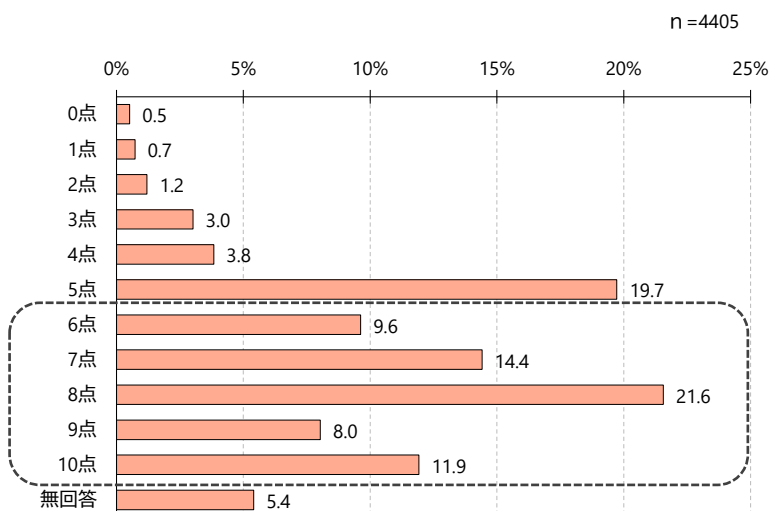
※健康ではない人 = 「あまりよくない」または「よくない」と回答した人の合計

## 第1部 総論

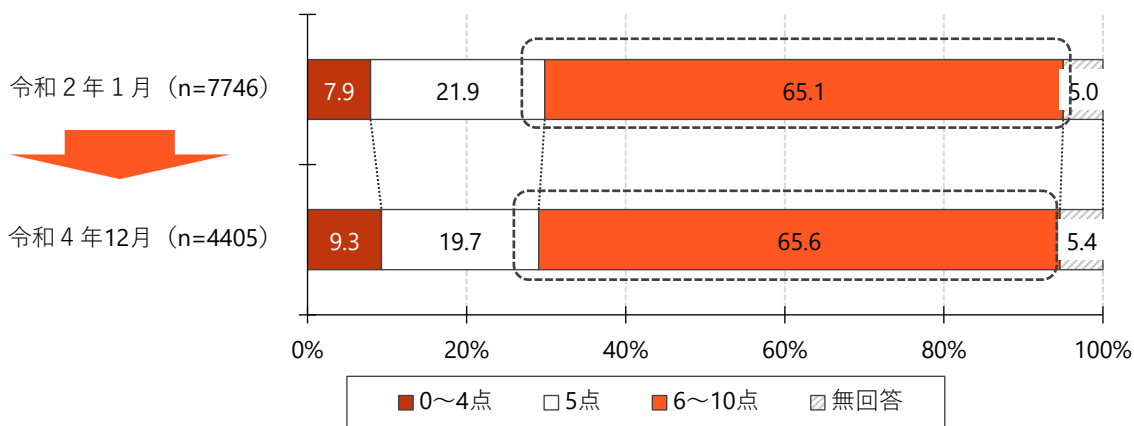
⑩ あなたは、現在どの程度幸せですか。(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として回答)

「8点」が21.6%と最も多く、次いで「5点」が19.7%、「7点」が14.4%、「10点」が11.9%、「6点」が9.6%となっています。

今回調査と前回調査を比較して、0～4点を回答した人を合わせた割合と、6～10点を回答した人を合わせた割合をみても、大きな差はありません。



前回調査(令和2年1月)結果と今回調査(令和4年12月)結果との比較



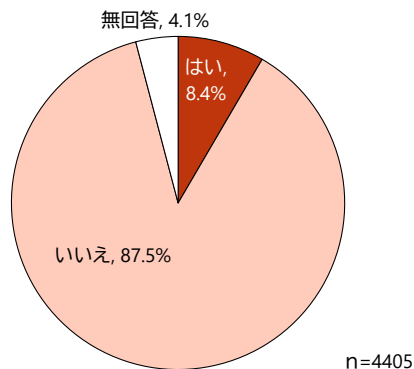
※0～4点 = 「0点 (とても不幸)」、「1点」、「2点」、「3点」、「4点」と回答した人の合計

※6～10点 = 「6点」、「7点」、「8点」、「9点」、「10点 (とても幸せ)」と回答した人の合計

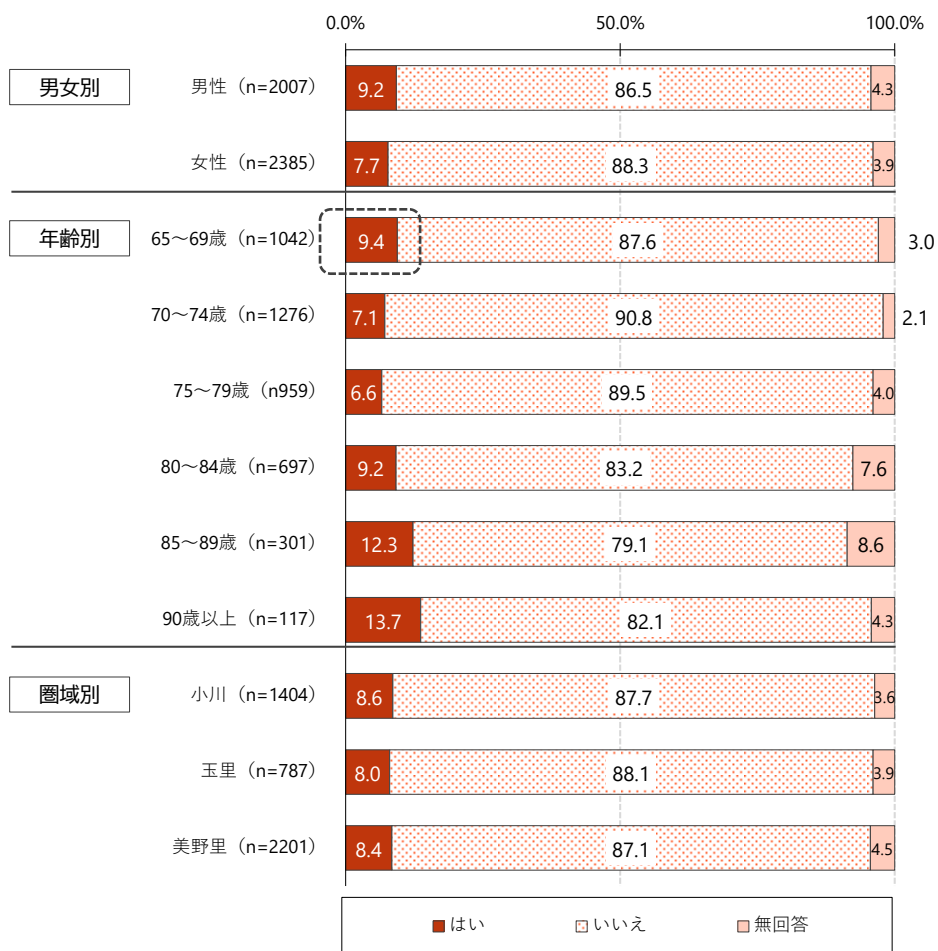
① 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。

「はい」が8.4%、「いいえ」が87.5%となっています。

年齢別で見ると、「はい」の割合は、高齢になるほど高くなる傾向がうかがえ、85～89歳以上で1割を超えています。また、65～69歳が9.4%とその他の年齢と比べてやや高いのは、介護者として認知症のある人を介護している方の割合が影響していると考えられます。



「自身や家族に認知症の症状があるか」×属性(男女別、年齢別、圏域別)



## 第1部 総論

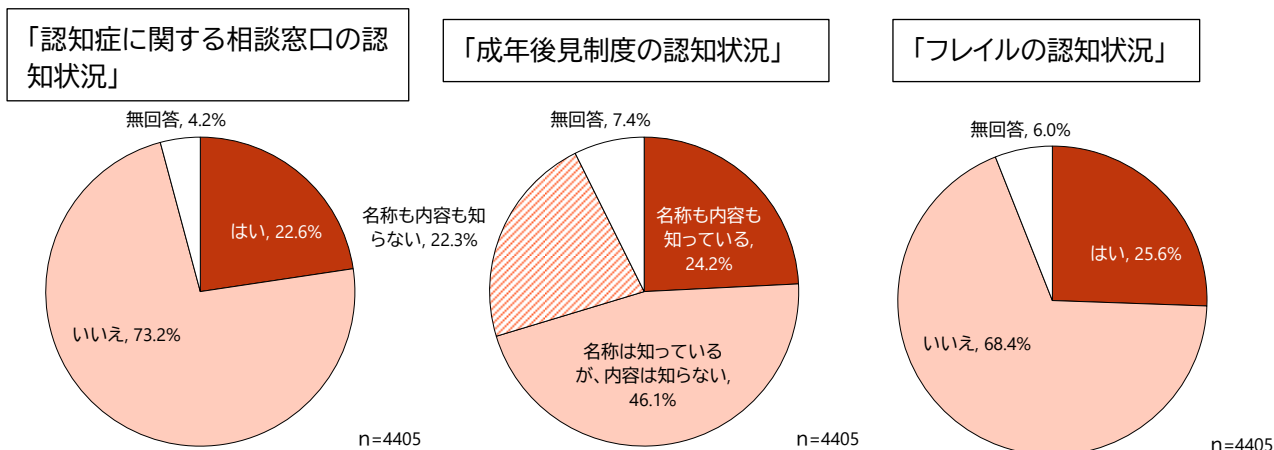
### ⑫ 認知症に関する相談窓口、成年後見制度、フレイルを知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかについて、「はい」が22.6%、「いいえ」が73.2%となっています。

成年後見制度を知っているかについて、「名称は知っているが、内容は知らない」が46.1%と最も多く、次いで「名称も内容も知っている」が24.2%、「名称も内容も知らない」が22.3%となっています。

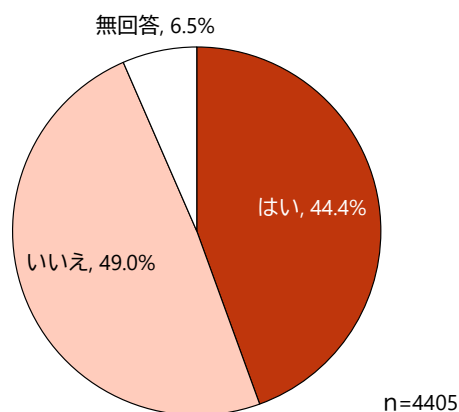
フレイル<sup>※</sup>という言葉を知っているかについて、「はい」が25.6%、「いいえ」が68.4%となっています。

※フレイルについては、43ページの「フレイルとは」を参照ください。



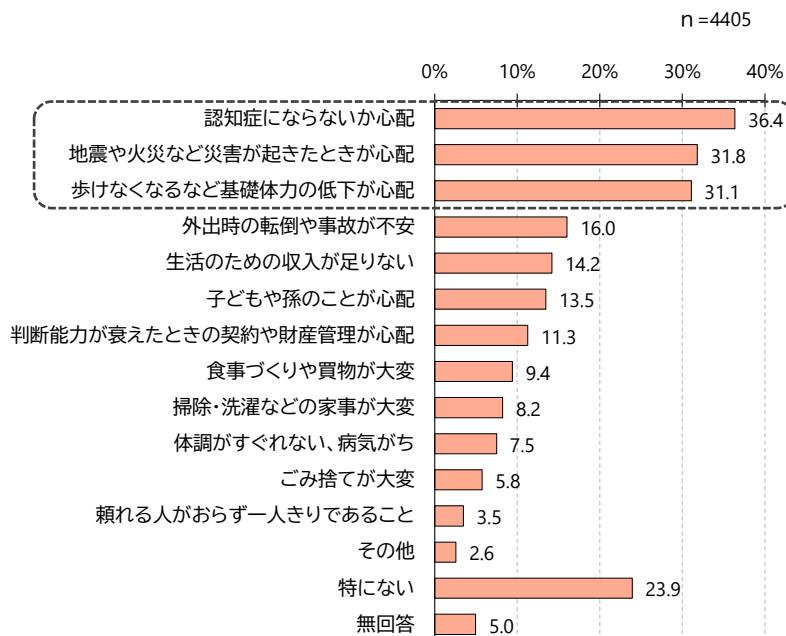
### ⑬ あなたは、現在、介護が必要な状態になることを予防するために教室や講座を利用していますか。（新型コロナウイルス感染症流行の影響で現在は休止している場合でも、利用していることとしてお答えください。）

「はい」が44.4%、「いいえ」が49.0%となっています。



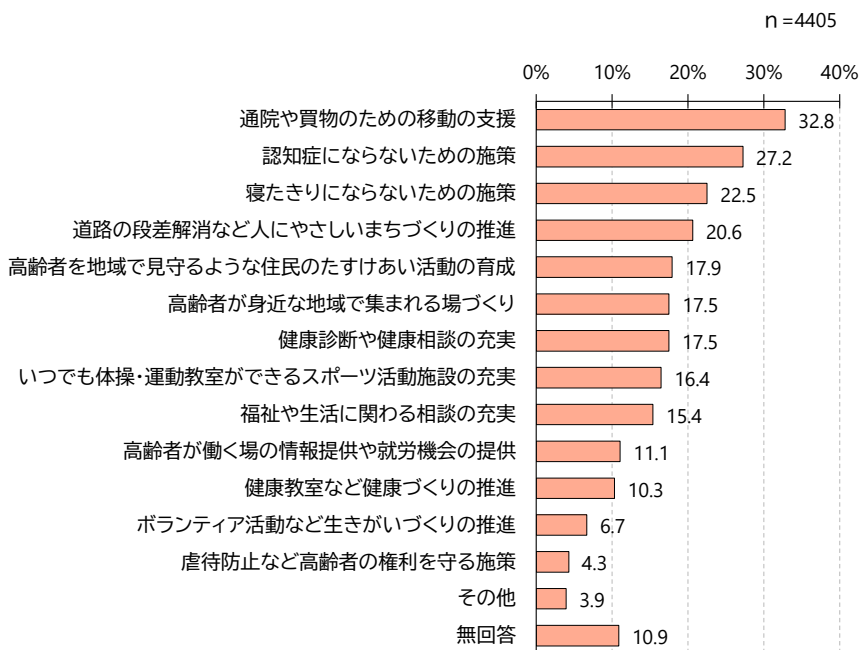
⑭ 日常生活において、不安、悩み、心配事がありますか。(複数回答)

「認知症にならないか心配」が36.4%と最も多く、次いで「地震や火災など災害が起きたときが心配」が31.8%、「歩けなくなるなど基礎体力の低下が心配」が31.1%、「外出時の転倒や事故が不安」が16.0%となっています。また、「特にない」が23.9%となっています。



⑮ あなたが、今後、力を入れてほしい高齢者施策はどのようなものですか。(複数回答)

「通院や買物のための移動の支援」が32.8%と最も多く、次いで「認知症にならないための施策」が27.2%、「寝たきりにならないための施策」が22.5%、「道路の段差解消など人にやさしいまちづくりの推進」が20.6%、「高齢者を地域で見守るような住民のたすけあい活動の育成」が17.9%となっています。

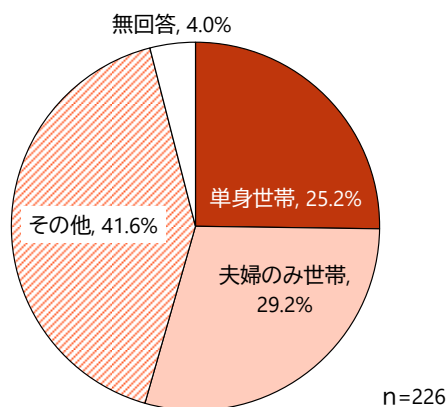




### 3. 主な調査結果及び傾向と課題(在宅介護実態調査)

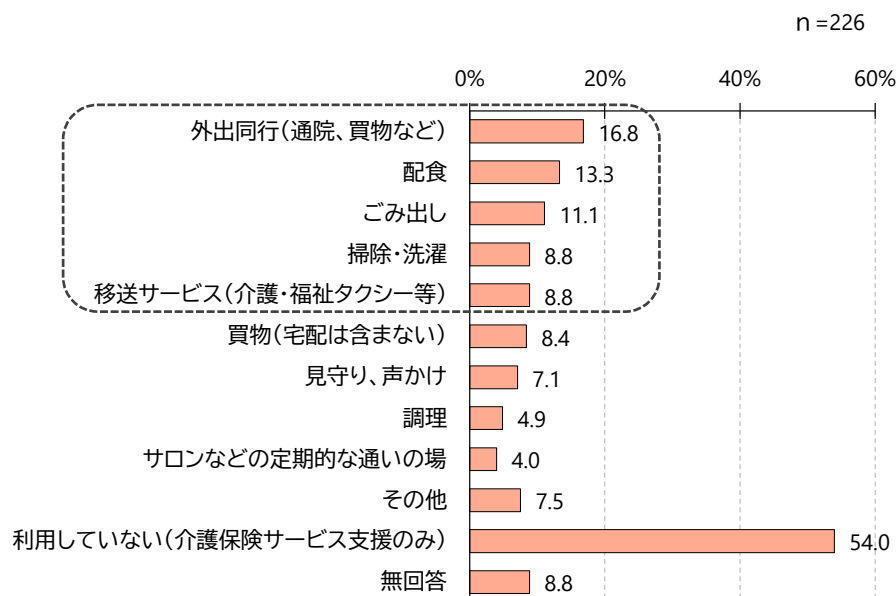
① 世帯類型について教えてください。

「その他」が41.6%と最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が29.2%、「単身世帯」が25.2%となっています。



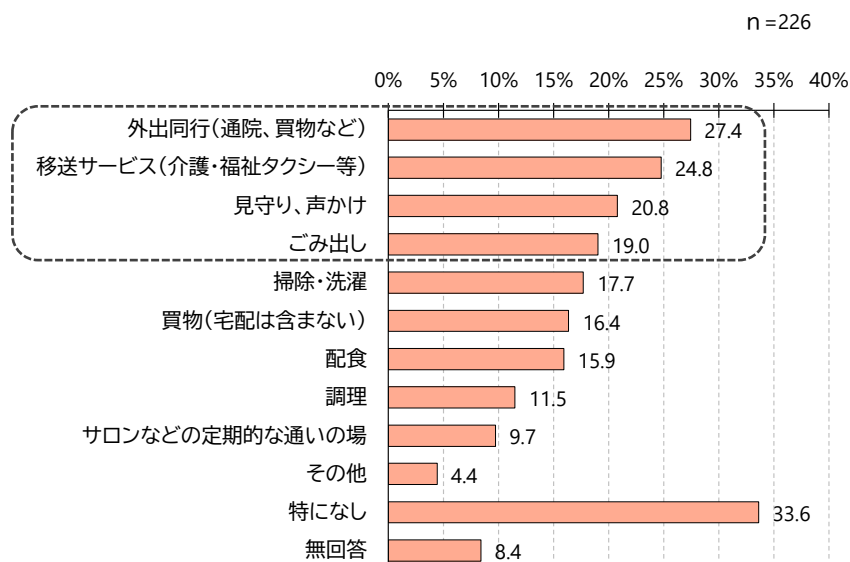
② 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて教えてください。(複数回答)

「外出同行(通院、買物など)」が16.8%、「配食」が13.3%、「ごみ出し」が11.1%、「掃除・洗濯」及び「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が8.8%となっています。また、「利用していない(介護保険サービス支援のみ)」が54.0%と最も多くなっています。



- ③ 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について教えてください。(複数回答)

「外出同行(通院、買物など)」が27.4%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が24.8%、「見守り、声かけ」が20.8%、「ごみ出し」が19.0%となっています。また、「特になし」が33.6%と最も多くなっています。

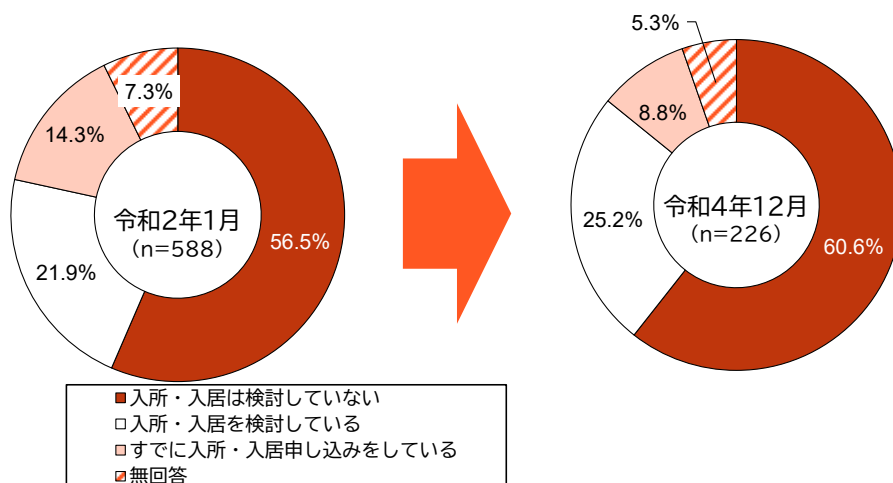


- ④ 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について教えてください。

「入所・入居は検討していない」が60.6%と最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が25.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が8.8%となっています。

今回調査と前回調査を比較して、「入所・入居は検討していない」と「入所・入居を検討している」の割合が3~4ポイントほど増加しています。

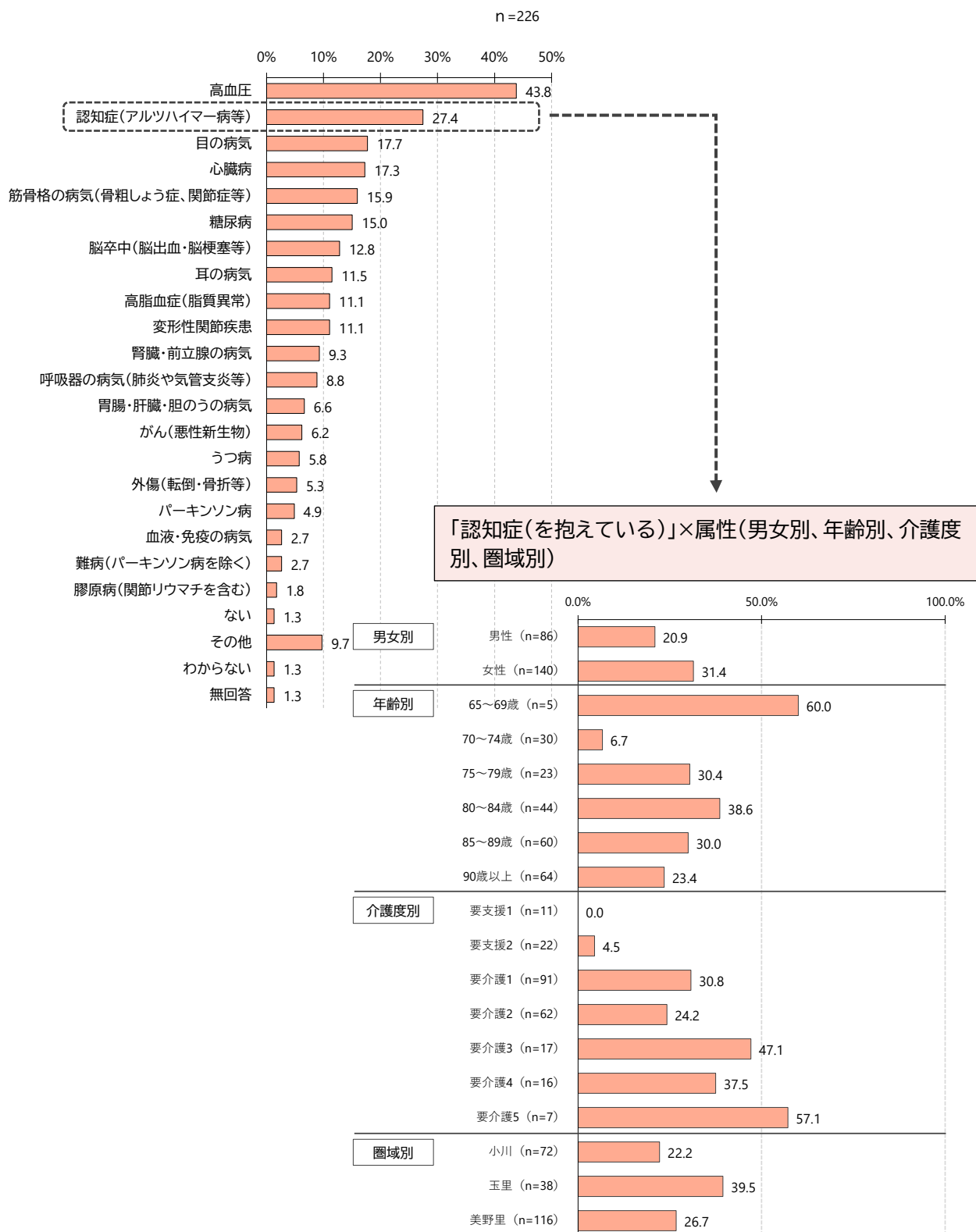
前回調査(令和2年1月)結果の比較と今回調査(令和4年12月)結果



# 第1部 総論

## ⑤ ご本人(あて名の方)が、現在抱えている傷病について教えてください。(複数回答)

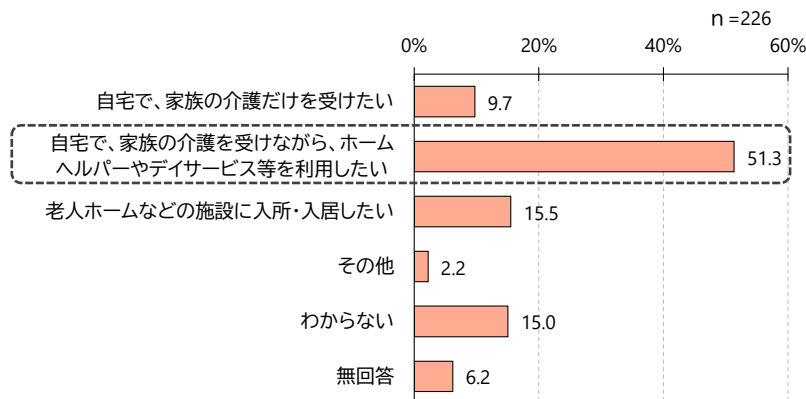
「高血圧」が43.8%と最も多く、次いで「認知症(アルツハイマー病等)」が27.4%、「目の病気」が17.7%、「心臓病」が17.3%となっています。また、「認知症(アルツハイマー病等)」と答えた人を男女別で見ると女性が男性より多く、年齢別では65～69歳が6割で最も多く、次いで80～84歳が約4割となっています。介護度別では要介護5が5割を超えて最も多く、次いで要介護3が約5割で、圏域別では玉里が約4割で最も多くなっています。



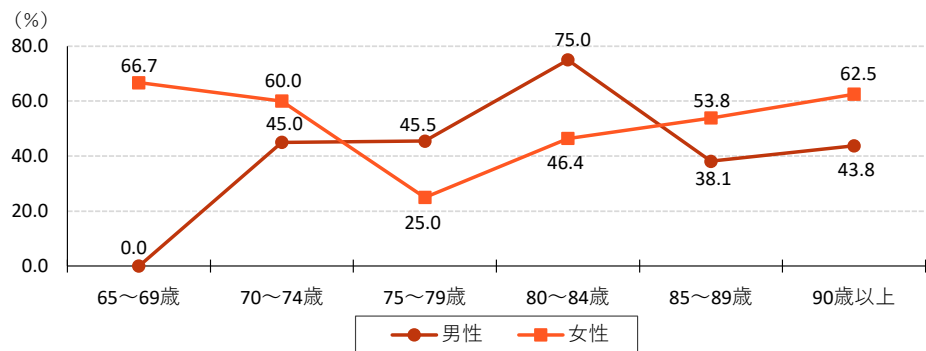
⑥ あなたは、今後、どのような介護を受けたいと思いますか。

「自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービス等を利用したい」が51.3%と最も多く、次いで「老人ホームなどの施設に入所・入居したい」が15.5%、「わからない」が15.0%、「自宅で、家族の介護だけを受けたい」が9.7%、「その他」が2.2%となっています。

「自宅で家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやサービス等を利用したい」と答えた人を男女別・年齢別でみると、女性は65～69歳が66.7%で最も多く、男性は80～84歳が75.0%で最も多くなっています。



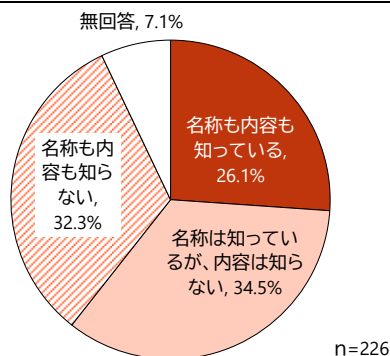
「自宅で家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやサービス等を利用したい」×属性(男女別×年齢別)



【実数】	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
男性 (人)	0	9	5	12	8	7
女性 (人)	2	6	3	13	21	30

⑦ 成年後見制度を知っていますか。

「名称は知っているが、内容は知らない」が34.5%と最も多く、次いで「名称も内容も知らない」が32.3%、「名称も内容も知っている」が26.1%となっています。



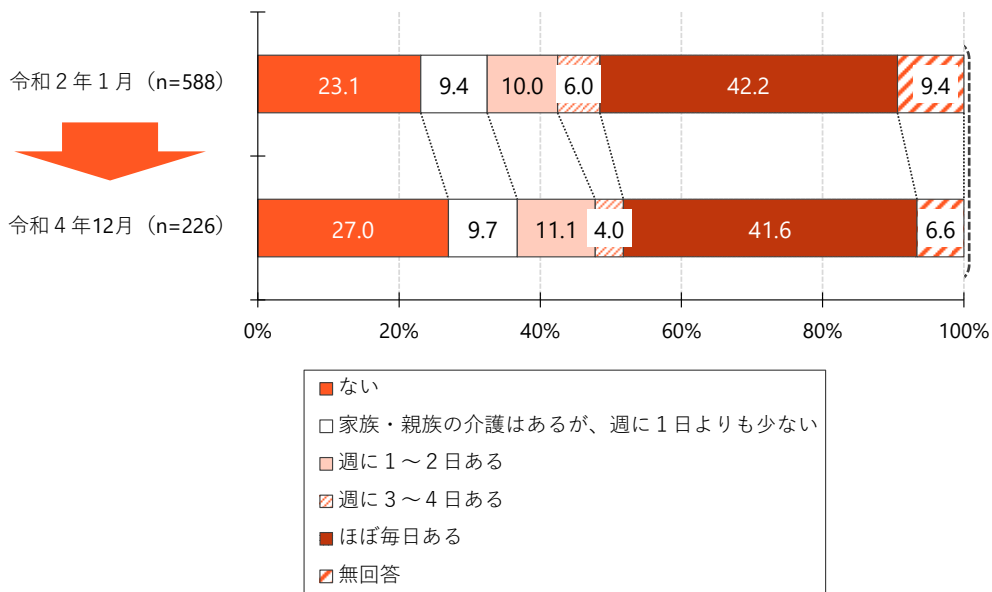
## 第1部 総論

- ⑧ ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。

「ほぼ毎日ある」が41.6%と最も多く、次いで「ない」が27.0%、「週に1～2日ある」が11.1%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」が9.7%、「週に3～4日ある」が4.0%となっています。

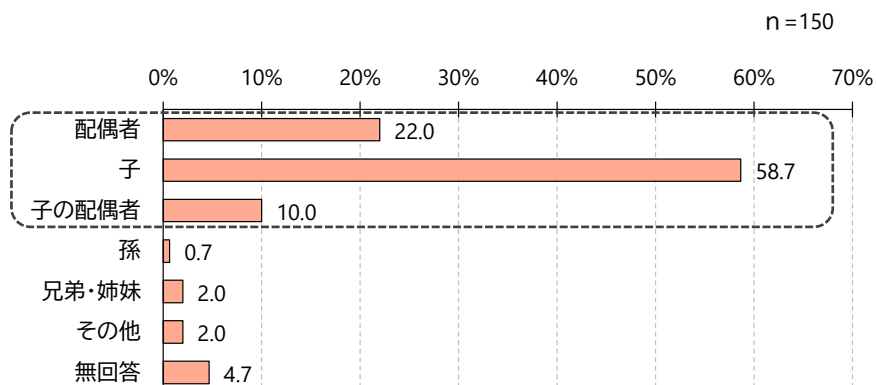
今回調査と前回調査を比較して、「(家族や親族の方からの介護が)ほぼ毎日ある」の割合をみても大きな差はありません。

前回調査(令和2年1月)結果と今回調査(令和4年12月)結果の比較



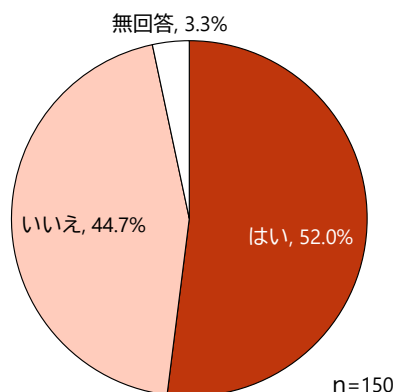
- ⑨ 主な介護者の方(主に介護している方)はどなたですか。

「子」が58.7%と最も多く、次いで「配偶者」が22.0%、「子の配偶者」が10.0%、「兄弟・姉妹」及び「その他」が2.0%となっています。



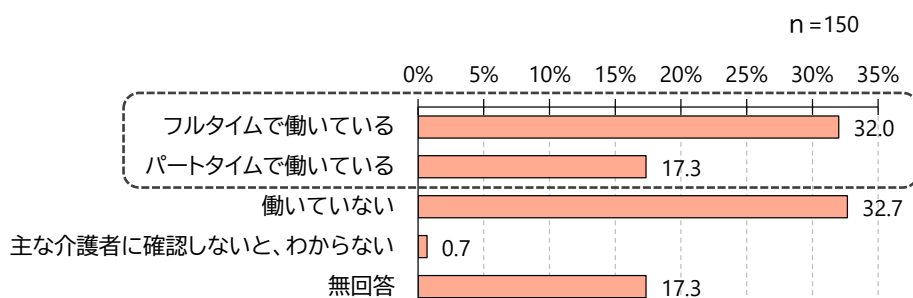
## ⑩ 主な介護者の方は、介護を1人で担っていますか。

「はい」が52.0%、「いいえ」が44.7%となっています。



## ⑪ 主な介護者の方の現在の勤務形態について教えてください。

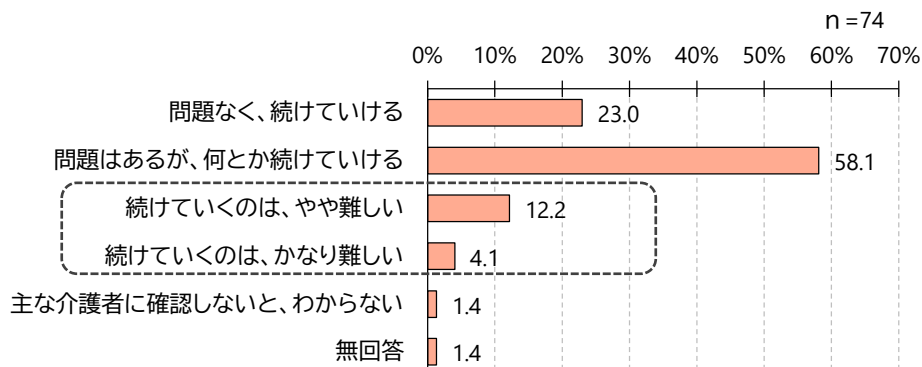
「働いていない」が32.7%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が32.0%、「パートタイムで働いている」が17.3%となっています。



## ⑪で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方

## ⑫ 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

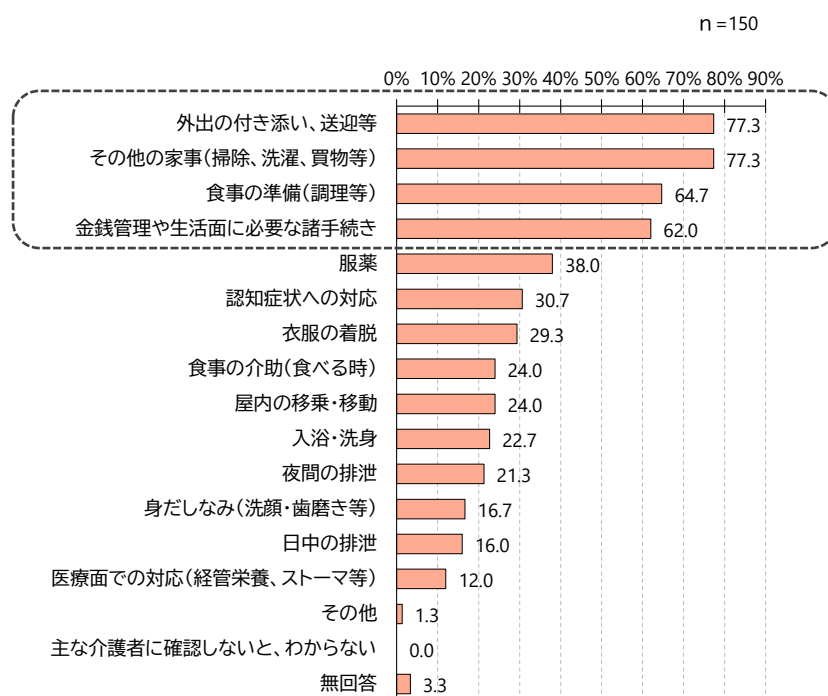
「問題はあるが、何とか続けていける」が58.1%と最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が23.0%、「続けていくのは、やや難しい」が12.2%、「続けていくのは、かなり難しい」が4.1%となっています。



## 第1部 総論

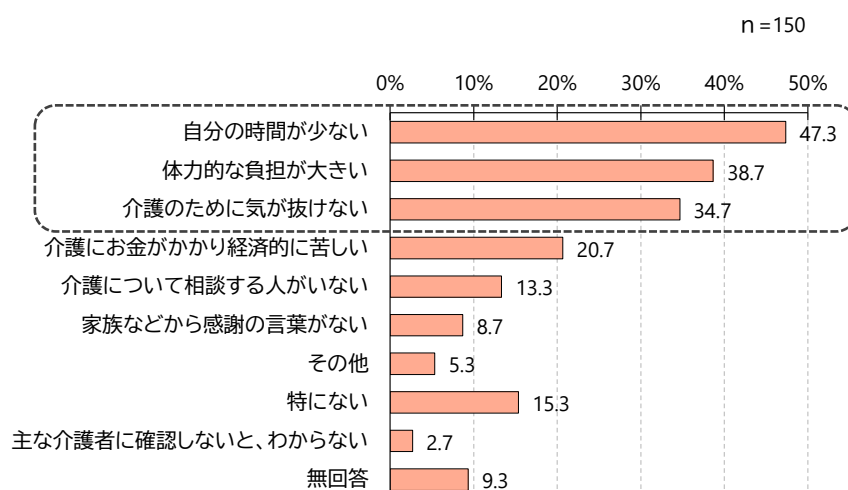
### ⑬ 現在、主な介護者の方が行っている介護等について教えてください。(複数回答)

「外出の付き添い、送迎等」及び「その他の家事(掃除、洗濯、買物等)」が77.3%、「食事の準備(調理等)」が64.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が62.0%、「服薬」が38.0%となっています。



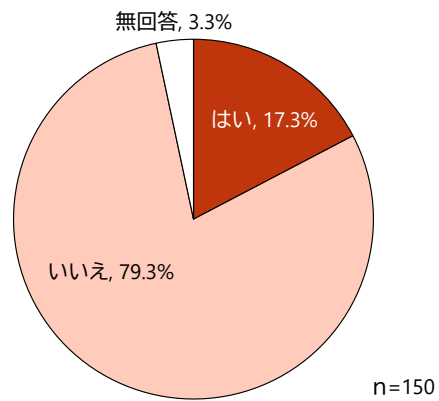
### ⑭ 主な介護者の方は、介護をしていてどんなことに苦労を感じますか。(複数回答)

「自分の時間が少ない」が47.3%と最も多く、次いで「体力的な負担が大きい」が38.7%、「介護のために気が抜けない」が34.7%、「介護にお金がかかり経済的に苦しい」が20.7%となっています。また、「特にない」が15.3%となっています。



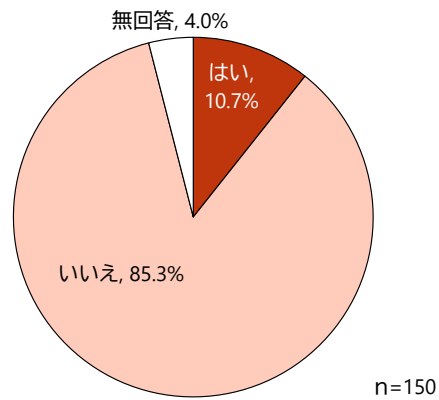
⑮ 主な介護者の方は、複数の高齢者を介護していますか。

「はい」が17.3%、「いいえ」が79.3%となっています。



⑯ 主な介護者の方は、子どもや孫の育児をしながら介護をしていますか。

「はい」が10.7%、「いいえ」が85.3%となっています。





## 第4節 現状と傾向、課題のまとめ

### 1. 進行する高齢化、健康づくり、幸せづくりのさらなる増進が必要

本市の総人口は減少傾向にあり、年齢構成別にみると高齢者（65歳以上）の増加率が顕著で、全国の高齢化率を上回る推計となっています。このうち、特に後期高齢者（75歳以上）が占める割合の増加が大きく、令和22（2040）年には約5人に1人が後期高齢者（75歳以上）となる予測です。

一方、アンケート調査結果から、市内の高齢者のうち8割弱が健康であると感じ、6割以上が幸せの度合いが高く、多くの高齢者が暮らしの充実につながっている状態にあることがわかります。加えて、約3人に1人が収入のある仕事に就いており、そのうち、7割以上が健康な限り仕事を続けていきたいと考えていることから、就労意欲の高い高齢者が多くいることもうかがえます。

今後、2040年問題を見据え、前期高齢者（65～74歳）の介護予防の意識と参加を進め、後期高齢者（75歳以上）も引き続き健康であり続けられるよう健康づくり、幸せづくりにつながる取組を増進させていくことが重要です。

### 2. いくつになっても自分らしく地域で過ごしていくために必要な取組の推進

市内のひとり暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯は増加傾向にあり、認知症を発症するリスクが高まる年齢層の後期高齢者（75歳以上）は今後も増え続ける予測です。

そのため、地域での孤立化や家庭内だけで悩みや不安を抱えてしまい、つらい思いをする高齢者をなくすためにも、身近な相談支援の充実が求められます。

アンケート調査結果から、特に、男性は相談相手や頼れる相手として配偶者が多い傾向にあるため、日ごろから交流の機会や相談相手を増やしていくことも様々なリスク回避につながる重要な取組です。

また、介護者が不安に感じることで認知症状への対応が最も多い一方で、認知症に関する相談窓口や成年後見制度、フレイル<sup>※</sup>に対する認知・理解が2割程度と低いことから、これらの取組の周知の徹底や認知症対策への取組の拡充が求められます。

また、本市の在宅で介護を受けている高齢者の6割が施設等への入居・入所は検討しておらず、半数以上が“自宅で”何らかの介護を受けながら過ごしたいと考えていることから、引き続き地域で健やかに暮らしていくための方策が求められます。

自宅で介護を受けながら生活していくためには、特に、介護者の負担軽減が必要となりますが、現時点では、介護者の約6割が介護による離職はなく、およそ半数がフルタイムもしくはパートタイムで働いており、そのうち15%以上が仕事と介護の両立が困難であると感じています。さらに、複数の高齢者を介護していたり、子どもや孫の育児をしながら介護をしている方も1割程度いることから、こうした介護者やその家庭にとって適切な支援が届くよう体制を強化していく必要があります。

※フレイルについては、43ページの「フレイルとは」を参照ください。

### 3. これからも安心して過ごしていける環境づくりへの取組の重要性

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、外出を控えたり、機会を失ってしまった高齢者は多いと推察されます。

アンケート調査結果では、外出を控える人の割合が高くなっており、介護予防の取組や活動、交流、近所への散歩や買物などの頻度が減ることで、健康面の悪化や要介護の重度化が懸念されます。今後、感染症拡大や災害等緊急時の対策について、地域活動団体や事業所等とも連携して強化・推進していく必要があります。

そのためには、これまで令和7（2025）年に向けて取り組んできた、地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進、そして機能強化に向けた体制の検討や、医療と地域をより密接につないでいく仕組みづくりを検討していく必要があります。

### 4. 介護者の負担軽減と地域で暮らし続けるためのサービス提供量の検討

本市の介護認定率は増減を繰り返しながら推移していますが、14%台でとどまっております。令和5（2023）年度現在の要介護認定率は全国や県、近隣市町と比べて特に低く、重度認定者（要介護3～5）の割合は全国や県と比べるとやや高いものの、近隣市町と比べると比較的低い傾向にあり、これは、要介護1、2の段階でとどめられていることが一因と考えられます。

一方、在宅サービスの受給率が低く、現時点では元気な前期高齢者（65～74歳）が多いためであると考えられますが、今後、後期高齢者（75歳以上）が増加していく予測を考えると、在宅サービスを段階的に充実させていくことを視野に入れた、介護保険サービスの提供も検討していく必要性があると考えます。

#### フレイルとは

フレイルとは、加齢とともに運動機能や認知機能の低下がみられる状態を指します。閉じこもりや社会的孤立などの原因になるとされており、高齢者が増えている現代社会において、早めの気づきや正しい治療・予防が重要であり、健康寿命の延伸や介護予防にとって、フレイル対策が大きな課題になっています。

フレイルの予防として、慢性疾患の適切な治療、慢性的な栄養不足の改善、筋力低下に対して無理のない運動療法などがあり、筋力をつけるため、良質なたんぱく質やビタミン類の摂取が必要になります。

また、高齢者は免疫力が低下するため、感染症にかかりやすく、早めのワクチン接種を行うことが大切です。

